Form No. 3428-212 Rev A

TORO®

Count on it.

オペレーターズマニュアル

Reelmaster® 7000-D 4輪駆動トラクションユニット

モデル番号03781—シリアル番号 403350001 以上
モデル番号03781TE—シリアル番号 400000000 以上

製品の登録は www.Toro.com.
この文書は翻訳です。 (JA)

CE

3428-212 A

この製品は、関連するEU規制に適合しています 詳細については、DOC シート規格適合証明書をご覧ください。

カリフォルニア州の森林地帯・潅木地帯・草地などでこの機械を使用する場合には、エンジンに同州公共資源法第4442章に規定される正常に機能するスパークアレスタが装着されていること、エンジンに対して森林等の火災防止措置をほどこされていることが義務づけられており、これを満たさない機械は、第4442章または4443章違犯となります。

エンジンの保守整備のため、および米国環境保護局EPA並びにカリフォルニア州排ガス規制に関連してエンジンマニュアルを同梱しております。エンジンマニュアルはエンジンのメーカーから入手することができます。

⚠ 警告

カリフォルニア州
第65号決議による警告

カリフォルニア州では、ディーゼルエンジンの排気には発癌性や先天性異常などの原因となる物質が含まれているとされております。

バッテリーやバッテリー関連製品には鉛が含まれており、カリフォルニア州では発ガン性や先天性異常を引き起こす物質とされています。取り扱い後は手をよく洗ってください。

米国カリフォルニア州では、この製品を使用した場合、ガンや先天性異常などを誘発する物質に触れる可能性があるとされております。

はじめに

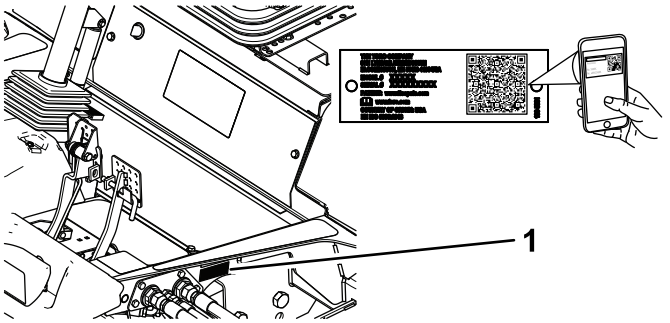
この機械は回転刃を使用するリール式乗用芝刈り機であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、適切な管理を受けている芝生の刈り込みに使用することを主たる目的とする機械です。この機械は本来の目的から外れた使用をすると運転者本人や周囲の人間に危険な場合があります。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切で安全な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

安全上の注意事項、取扱い説明書、アクセサリについての資料、代理店の検索、製品のご登録などについては www.Toro.com へ。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

重要 **シリアル番号プレートについている QR コード無い場合もありますをモバイル機器でスキャンすると、製品保証、パーツその他の製品情報にアクセスできます。**



g233760

図 1

1. 銘板取り付け位置

モデル番号_____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号図 2を使用しております。これらは死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから、必ずお守りください。



g000502

図 2
危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要** は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

© 2019—The Toro® Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420

連絡先 www.Toro.com.
Printed in the USA
禁無断転載

目次

安全について 4
安全に関する一般的な注意 4
エンジンからの排気に関わる認証 4
安全ラベルと指示ラベル 4
組み立て 11
1 サポートローラを調整する 12
2 CE 規格に適合させるためにフードにロックを取り付けます。 12
3 カッティングユニットを取り付ける 13
4 ターフ補正スプリングを調整する 17
5 カッティングユニットのキックスタンドの使い方 17
6 グリスアップを行う 18
7 液量を点検する 19
8 ゲージバーを使う 19
9 CE デカルを貼り付ける 19
製品の概要 20
各部の名称と操作 20
仕様 26
トラクションユニットの仕様 26
アタッチメントとアクセサリ 26
運転の前に 26
運転前の安全確認 26
毎日の整備作業を実施する 26
燃料を補給する 27
運転中に 27
運転中の安全確認 27
エンジンの始動手順 29
エンジンの停止手順 29
昇降アームのカウンタバランスを調整する 29
昇降アームの旋回位置を調整する 30
ROPSを折りたたむ 30
インタロックスイッチの動作を点検する 31
ヒント 31
運転終了後に 32
運転終了後の安全確認 32
トレーラへの積み込み 32
ロープ掛けのポイント 32
ジャッキアップポイント 32
緊急時の牽引移動 32
保守 35
保守作業時の安全確保 35
推奨される定期整備作業 35
始業点検表 37
潤滑 38
ベアリングとブッシュのグリスアップ 38
エンジンの整備 40
エンジンの安全事項 40
エアクリーナの整備 40
エンジンオイルの量を点検する 41
エンジンオイルとフィルタの整備 42
スロットルの調整 42
燃料系統の整備 43
燃料タンクの内部清掃 43
燃料ラインとその接続の点検 43
ウォーターセパレータの整備 43
燃料ろ過スクリーンの清掃 43
電気系統の整備 44
電気系統に関する安全確保 44
バッテリーの充電と接続 44
バッテリーの整備 44
ヒューズの点検 45
走行系統の整備 46
タイヤ空気圧を点検する 46
ホイールナットのトルクを点検する 46
プラネタリドライブ端部のガタの点検 46
プラネタリギアオイルの点検 46
プラネタリギアオイルの交換 47
後アクスルのオイル量を点検する 48
後アクスルのオイル交換 49
後アクスルのギアボックスのオイルを点検する 49
走行ドライブのニュートラル調整 49
後輪のトーインの調整 50
冷却系統の整備 51
冷却系統に関する安全確保 51
冷却系統を点検する 51
エンジンの冷却システムの整備 51
ブレーキの整備 52
ブレーキの調整 52
ベルトの整備 53
オルタネータベルトの整備 53
油圧系統の整備 53
油圧系統に関する安全確保 53
油圧ラインとホースの点検 53
油圧オイルの量を点検する 53
油圧作動液の仕様 54
油圧オイルの容量 54
油圧オイルの交換 54
油圧フィルタの交換 55
カッティングユニットの保守 56
刈り込みブレードについての安全事項 56
カッティングユニットのバックラップ 56
洗浄 57
機体の洗浄 57
保管 58
格納保管時の安全確保 58
トラクションユニットの整備 58
エンジンの整備 58

安全について

この機械は、EN ISO 5395: 規格に適合していますただし所定のセットアップを行うことが必要です。また、この機械は、ANSI B71.4-2017 規格に適合しています。

安全に関する一般的な注意

この機械は手足を切断したり物をはね飛ばしたりする能力があります。

- エンジンを始動する前に必ずこの*オペレーターズマニュアル*をお読みになり内容をよく理解してください
- この機械を運転する時は常に十分な注意を払ってください。運転中は運転操作に集中してください注意散漫は事故の大きな原因となります。
- 機械の可動部の近くには絶対に手足を近づけないでください。
- ガードなどの安全保護機器が正しく機能していない時は、運転しないでください。
- 作業場所に、無用の大人、子供、ペットなどを近づけないでください。子供に運転させないでください。
- エンジンを停止させ、キー付きの機種ではキーを抜き取り、各部の動作が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行う。

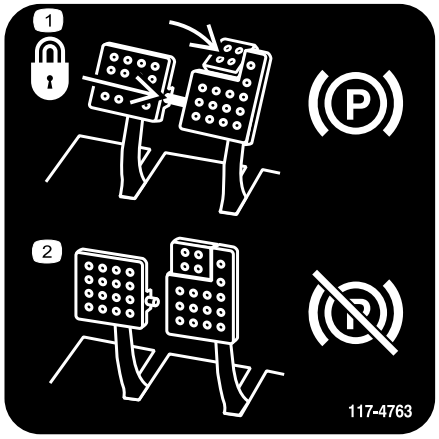
間違った使い方や整備不良は人身事故などの原因となります。事故を防止するため、以下に示す安全上の注意や安全注意標識 ⚠ のついている遵守事項は必ずお守りください「注意」、「警告」、および「危険」の記号は、人身の安全に関わる注意事項を示しています。これらの注意を怠ると死亡事故などの重大な人身事故が発生する恐れがあります。

エンジンからの排気に関わる認証

この機械に搭載されているエンジンは、EU Stage 3b 規制に適合しています。

安全ラベルと指示ラベル

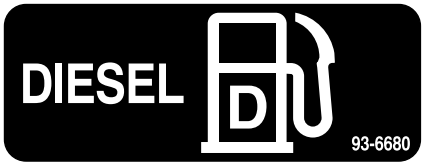
危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



decal117-4763

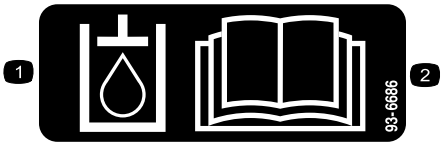
117-4763

1. 駐車ブレーキの掛け方左右のペダルをピンでつなぐ 駐車ブレーキペダルを踏み込んで、つま先ペダルを掛ける。
2. 駐車ブレーキの解除のし方 ロックピンを外し、ペダルを踏んで解除する。



decal93-6680

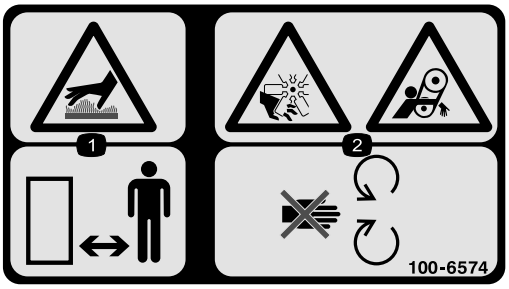
93-6680



decal93-6686

93-6686

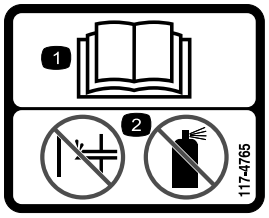
1. 油圧作動液
2. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。



decal100-6574

100-6574

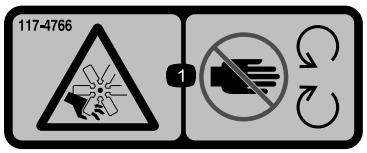
1. 高温危険人を近づけないこと。
2. インペラに巻き込まれたり手を切断したりする危険可動部に近づかないこと。



decal117-4765

117-4765

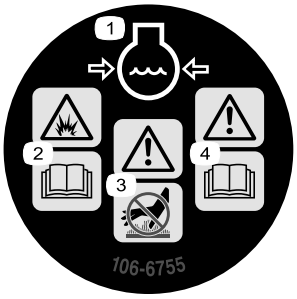
1. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。
2. 始動補助剤の使用禁止



decal117-4766

117-4766

1. ファンによる切傷や手足の切断の危険可動部に近づかないこと 使用時にはすべての安全カバー類を正しく取り付けておくこと。



decal106-6755

106-6755

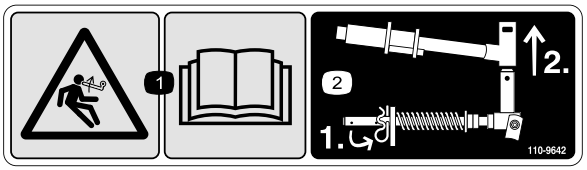
1. 冷却液の噴出に注意。
2. 爆発の危険*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
3. 警告高温部に触れないこと。
4. 警告 *オペレーターズマニュアル*を読むこと。



decal98-4387

98-4387

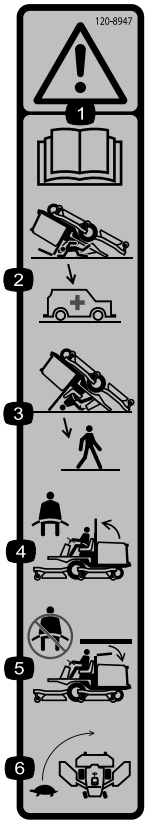
1. 警告 聴覚保護具を着用のこと。



decal110-9642

110-9642

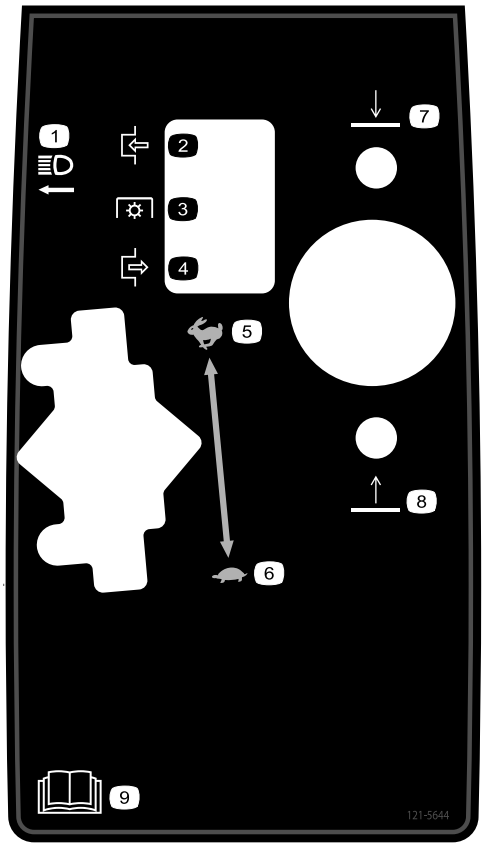
1. 負荷が掛かっている危険 *オペレーターズマニュアル* を読むこと
2. ロッドブラケットに一番近い穴にコッターピンを移し、昇降アームとヨークをを外す



decal120-8947

120–8947

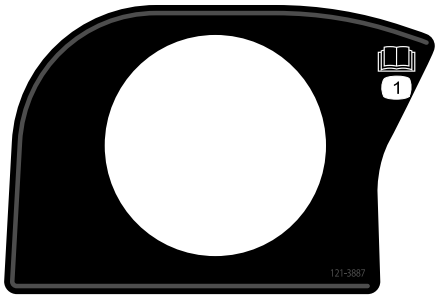
1. 警告*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
2. ROPS を下げた状態では、ROPS による安全保護は機能しない。
3. ROPS を立てれば転倒時の保護が機能する。
4. ROPS を立てて運転する時はシートベルトを着用すること。
5. ROPS を降ろして運転する時はシートベルトを着用しないこと。
6. 旋回操作はゆっくり行うこと。



decal121-5644

121–5644

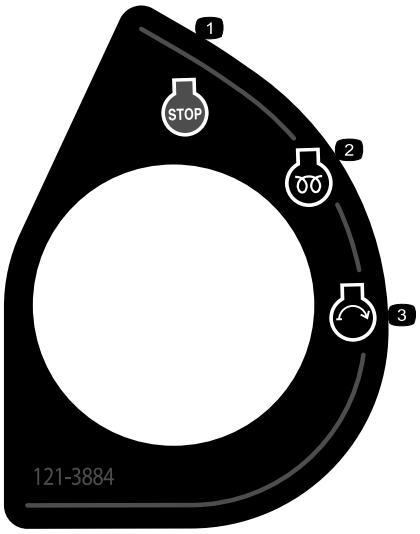
1. ライトスイッチ
2. 入
3. PTO
4. 切
5. 高速
6. 低速
7. 下降
8. 上昇
9. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。



decal121-3887

121-3887

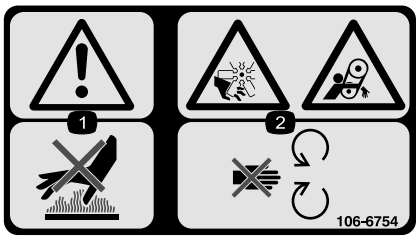
1. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。



decal121-3884

121-3884

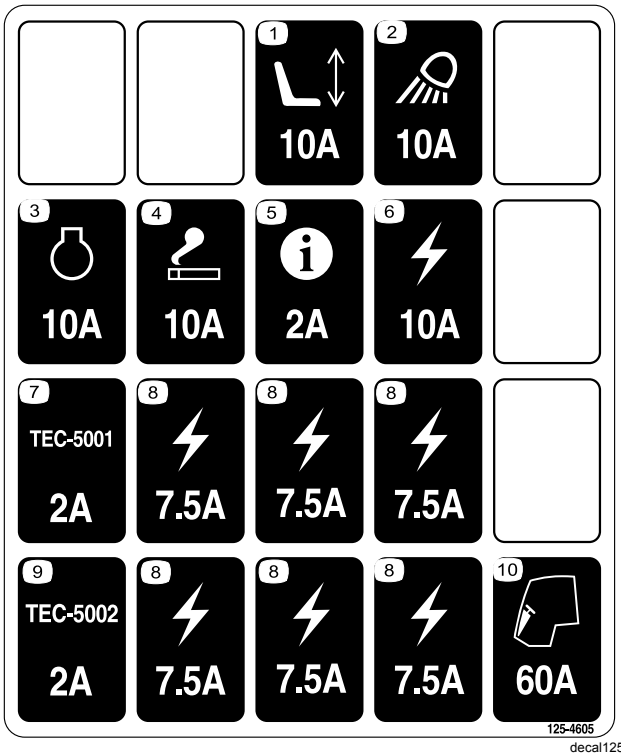
1. エンジン 停止
2. エンジン予熱
3. エンジン 始動



decal106-6754

106-6754

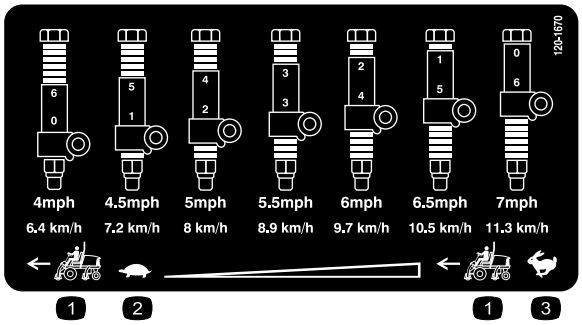
1. 警告高温部に触れないこと。
2. ファンによる手足の切断など、ベルトによる巻き込み事故の危険可動部に近づかないこと。



decal125-4605

125-4605

1. 電動シート
2. ワークライト
3. エンジン
4. ライター
5. インフォセンター
6. 電気
7. コントローラ
8. 電気
9. コントローラ
10. キャブ



decal120-1670

120-1670

1. トラクションユニットの速度
2. 低速
3. 高速



decalbatterysymbols

バッテリーに関する注意標識

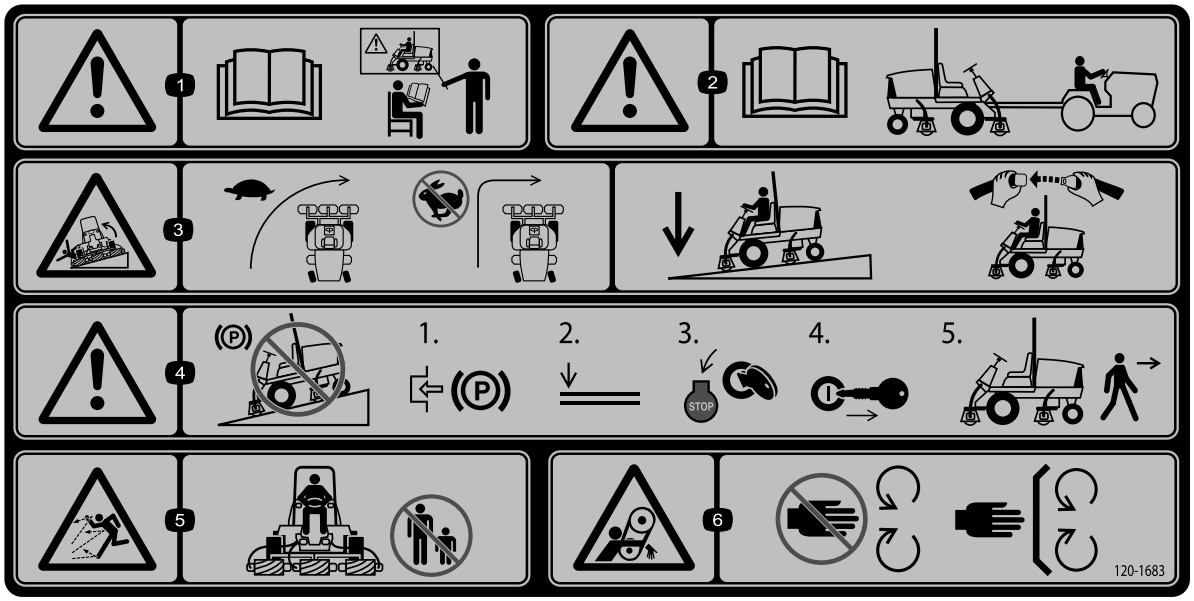
全てがついていない場合もあります。

1. 爆発の危険
2. 火気厳禁、禁煙厳守のこと
3. 劇薬につき火傷の危険あり
4. 保護メガネ等着用のこと。
5. *オペレーターズマニュアル* を読むこと。
6. バッテリーに人を近づけないこと。
7. 保護メガネ等着用のこと爆発性ガスにつき失明等の危険あり。
8. バッテリー液で失明や火傷の危険あり。
9. 液が目に入ったら直ちに真水で洗眼し医師の手当てを受けること。
10. 鉛含有普通ゴミとして投棄禁止。



decal133-8062

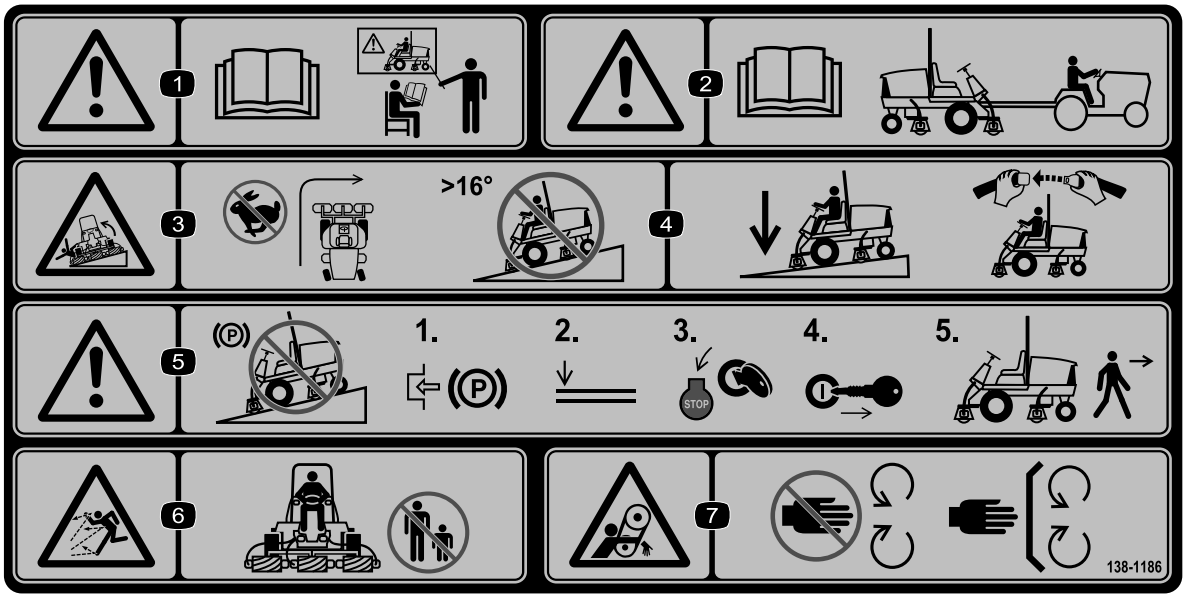
133-8062



decal120-1683

120-1683

1. 警告*オペレーターズマニュアル*を読むこと 必ず講習を受けてから運転すること。
2. 警告 このマシンの牽引を行う前に、*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
3. 転倒の危険 旋回する時は速度を落とすこと高速でターンしないこと下り坂ではカッティングユニットを下降させることROPS横転保護バーとシートベルトを使うこと。
4. 警告斜面に駐車しないこと平らな場所で、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、マシンから離れる場合にはキーを抜き取ること。
5. 異物が飛び出す危険作業場所に人を近づけないこと。
6. ベルトに巻き込まれる危険 可動部に近づかないこと。すべてのガード類を正しく取り付けて使用すること。



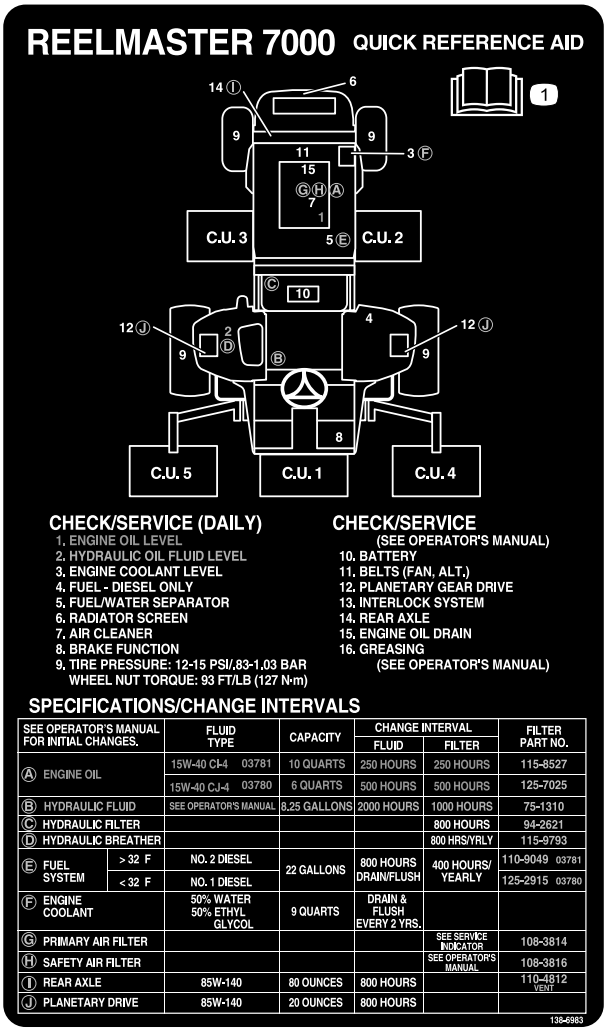
decal138-1186

138-1186

(CE 基準に適合させる場合に P/N 120-1683 の上から貼り付ける)

注 この機械は、業界で推奨される最大傾斜角度を用いた前後方向および左右方向の標準安定試験に合格しており、使用を認められる法面の最大角度がデカルに記載されています。斜面で運転する場合の条件や注意点について、また、特殊な天候や場所条件のもとでこの機械を使用することができるかどうかを判断する方法について、*オペレーターズマニュアル*で確認してください。同じ斜面上であっても、地表面の条件が変われば運転条件が変わります。斜面では可能なかぎりカッティングユニットを地表面まで下げておいてください。斜面上でカッティングユニットを上昇させると機体が不安定になる恐れがあります。

1. 警告 *オペレーターズマニュアル*を読むこと。必ず講習を受けてから運転すること。
2. 警告 このマシンの牽引を行う前に、*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
3. 転倒の危険急旋回をしないこと傾斜が 16° 以上の斜面に乗り入れないこと。
4. 下り坂ではカッティングユニットを下降させることROPS横転保護バーとシートベルトを使うこと。
5. 警告斜面に駐車しないこと平らな場所で、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、マシンから離れる場合にはキーを抜き取ること。
6. 異物が飛び出す危険人を近づけないこと。
7. ベルトに巻き込まれる危険 可動部に近づかないこと。すべてのガード類を正しく取り付けて使用すること。



decal138-6983

138-6983

1. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	–	サポートローラを調整します.
2	フードロックブラケット リベット ねじ¼ x 2" 平ワッシャ ¼" ロックナット¼"	1 2 1 2 1	CE規格適合用フードロックを取り付けます.
3	前ホースガイド右 前ホースガイド左	1 1	カッティングユニットを取り付ける。
4	必要なパーツはありません。	–	ターフ補正スプリングを調整します。
5	カッティングユニットのキックスタンド	1	カッティングユニットにキックスタンドを取り付けます。
6	必要なパーツはありません。	–	マシンのグリスアップを行ってください。
7	必要なパーツはありません。	–	後アクスルオイル、油圧オイル、エンジンオイルの量を点検します。
8	ゲージバー	1	ゲージバーは刈高の調整に使用します。
9	警告表示ステッカー CE 用ステッカー 製造年表示ステッカー	1 1 1	CE デカルを貼り付けます。

その他の付属品

内容	数量	用途
オペレーターズマニュアル	1	運転をする前にマニュアルを読んでください。
エンジンマニュアル	1	エンジンを初めて始動する前にマニュアルを読んでください。
規格適合認定書	1	欧州規格CE適合証明書です。

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

1

サポートローラを調整する

必要なパーツはありません。

手順

トラクションユニットに取り付けるカッティングユニットの刈り幅に合わせて、サポートローラを以下のように調整する

平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜き取る。

- 27" のカッティングユニットの場合、サポートアセンブリのチャネルの上穴にローラを取り付ける図 3。
- 32" のカッティングユニットの場合、サポートアセンブリのチャネルの下穴にローラを取り付ける図 3。

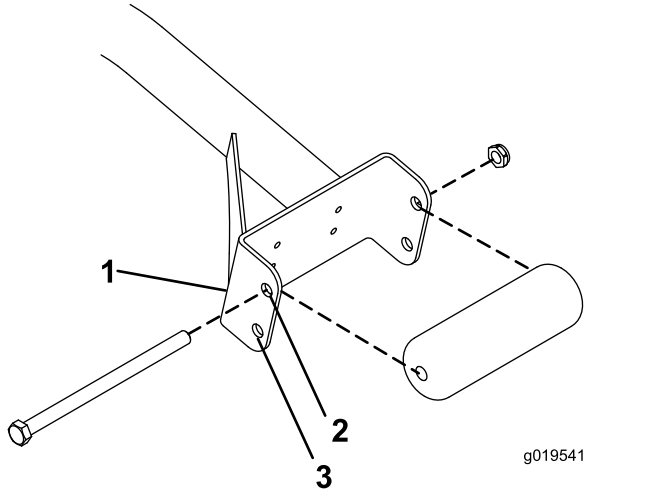


図 3

1. サポートアセンブリのチャネル材
2. 27" のカッティングユニットにはこの穴を使用。
3. 32" のカッティングユニットにはこの穴を使用。

2

CE 規格に適合させるためにフードにロックを取り付けます。

この作業に必要なパーツ

1	フードロックブラケット
2	リベット
1	ねじ¼ x 2"
2	平ワッシャ ¼"
1	ロックナット¼"

手順

1. フードラッチブラケットからフードラッチを外す図 4。

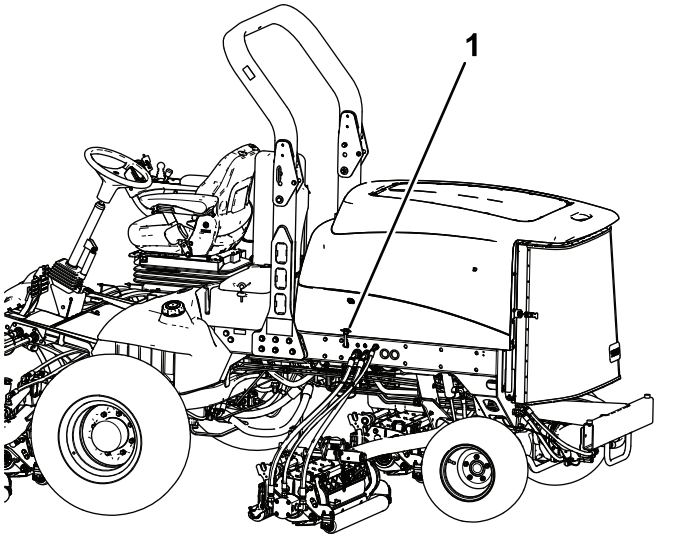
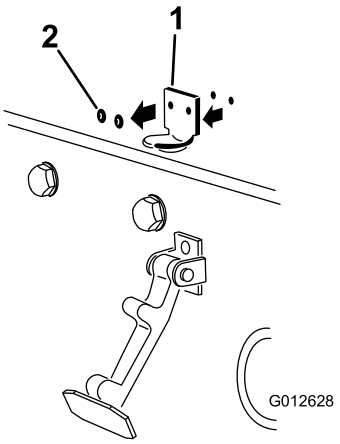


図 4

1. フードのラッチ

2. フードラッチブラケットをフードに固定しているリベット2本を外す図 5。



g012628

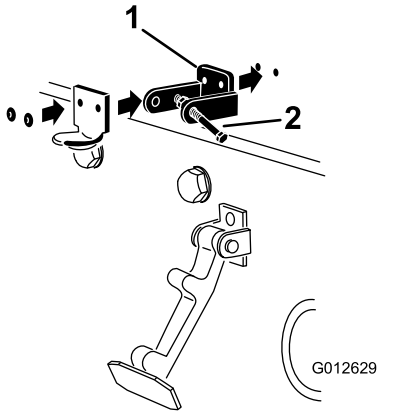
図 5

1. フードラッチブラケット　　2. リベット

3. フードからフードラッチブラケットを外す。
4. CEロックブラケットとフードラッチブラケットの穴を整列させてフードにセットする。

   注 ロックブラケットをフードに当てて取り付ける図 5。

   ロックブラケットアームについているボルトナットアセンブリは外さないでください。

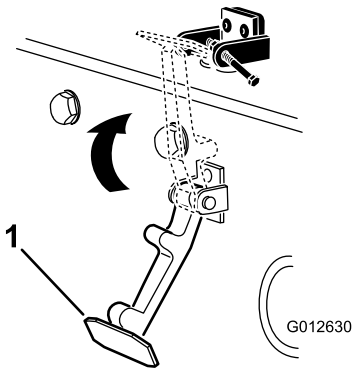


g012629

図 6

1. CE 用ロックブラケット　　2. ボルトナットアセンブリ

5. フードの内側にある穴に、ワッシャを整列させる。
6. ブラケットとワッシャをフードにリベットで固定する図 6。
7. フードラッチブラケットにフックをかける図 7。

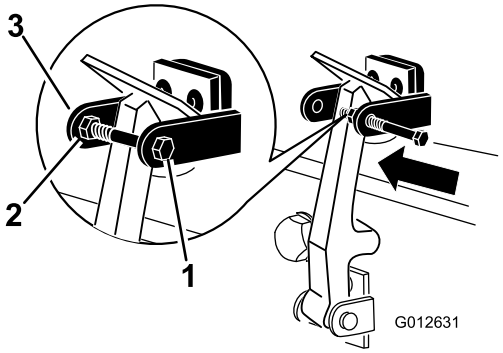


g012630

図 7

1. フードラッチ

8. フードロックブラケットのもう一つのアームにボルトを差し込んでラッチをロックする図 8。



g012631

図 8

1. ボルト　　3. フードロックブラケットのアーム
2. ナット

9. ボルトをしっかりと締め付けるが、ナットは締め付けない。

3

カッティングユニットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	前ホースガイド右
1	前ホースガイド左

手順

1. 出荷用ブラケットからリールモータを取り出す。
2. 出荷用ブラケットを外して廃棄する。
3. カッティングユニットをカートンから取り出す。

4. 同梱されているカッティングユニット用*オペレーターズマニュアル*に従って、希望の設定に組み立て、調整を行う。
5. カウンタウェイト(図 9) を、決められている側に取り付けるカッティングユニットの*オペレーターズマニュアル*を参照。

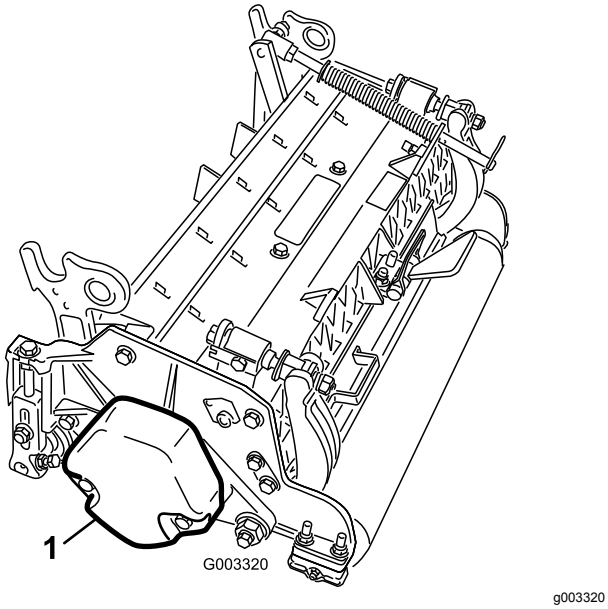


図 9

1. カウンタウェイト

6. すべてのカッティングユニットで、ターフ補正スプリングを、リール駆動用モータと同じ側に取り付ける。スプリング位置の変更方法は以下の通り
   A. カッティングユニットのタブにロッドブラケットを固定しているキャリッジボルト2本を外す図 10。

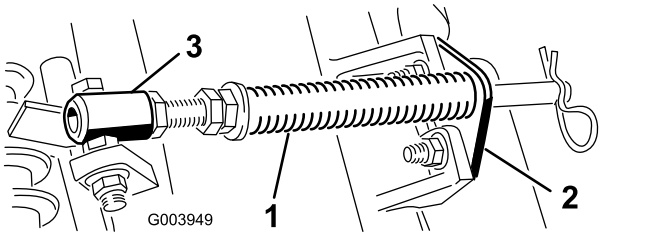


図 10

1. ターフ補正スプリング
2. ロッドブラケット
3. スプリングチューブ

   B. スプリングチューブのボルトをキャリアフレームのタブに固定しているフランジナット図 10を外す。
   C. アセンブリを取り外す。
   D. スプリングチューブのボルトを、反対側のキャリアフレームのタブに取り付け、フランジナットで固定する。

注 ボルトは、図 11に示すように、頭部が外側にくるように取り付ける。

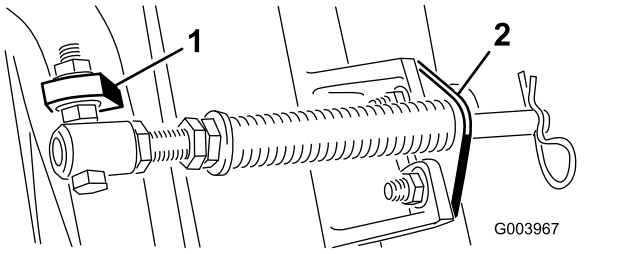


図 11

1. 反対側のキャリアフレームタブ
2. ロッドブラケット

   E. カッティングユニットのタブにロッドブラケットを取り付け、キャリッジボルト2本とナットで固定する図 11。ロッドブラケットの取り付けを行うときに、カッティングユニットのタブの前に、左ホースガイドを取り付ける図 13。

重要 **4番左前カッティングユニットと、5番右前カッティングユニットでは、ロッドブラケット取り付けナットを使って、各ユニットのタブの前にホースガイドを取り付ける。ホースガイドは、中央カッティングユニットに向かって傾斜するのが正しい図 12-図 14。**

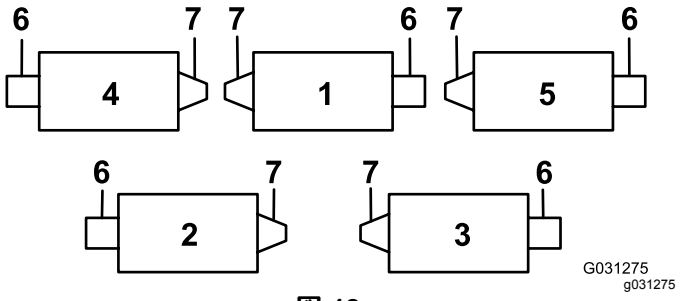


図 12

1. 1番カッティングユニット
2. 2番カッティングユニット
3. 3番カッティングユニット
4. 4番カッティングユニット
5. 5番カッティングユニット
6. リールモータ
7. ウェイト

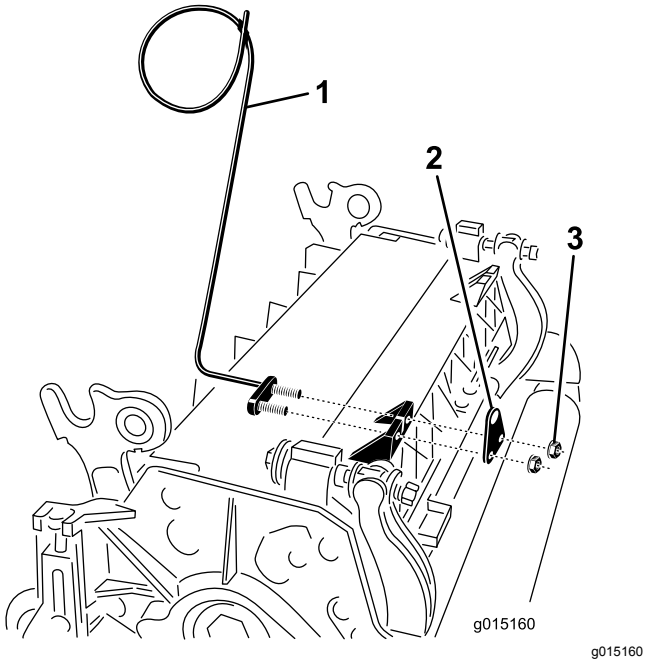


図 13

1. ホースガイド図は左用
2. ロッドブラケット
3. ナット

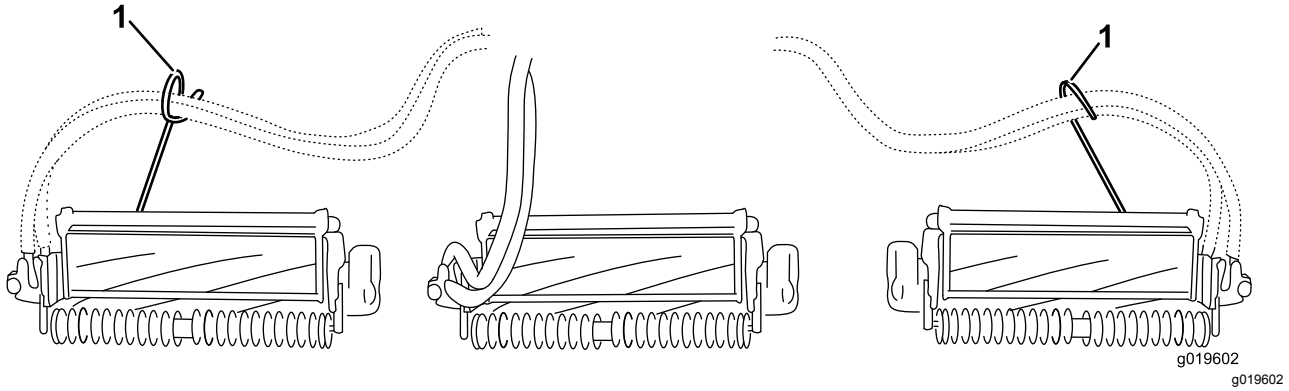


図 14

1. ホースガイドは、それぞれ中央カッティングユニットに向かって傾斜するのが正しい。

注 カッティングユニットをトラクションユニットに取り付ける時には、ロッドブラケットの隣にあるスプリングロッド穴にヘアピンコッターを、忘れずに取り付けてください。ユニットを外している時は、必ずヘアピンコッターをロッドの端の穴に差し込んでおいてください。

7. 後ろのカッティングユニット2番と3番のキャリアフレームから、ピボットスペーサ、六角ソケットねじ、およびフランジロックナット各2図 15を取り外すことにより、これらのカッティングユニットの首振り追従性能を向上させることができます図 12。

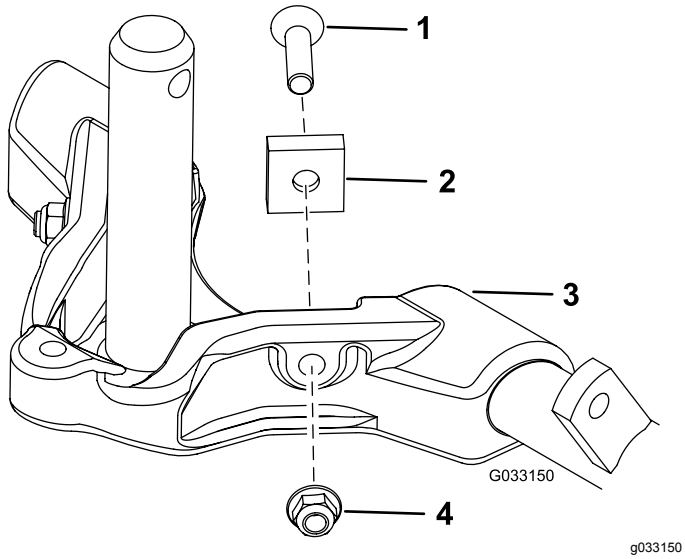


図 15

1. 六角ソケットねじ
2. ピボットスペーサ
3. キャリアフレーム
4. フランジロックナット

8. 全部の昇降アームを完全に下降させる。
9. キャリアフレームのシャフトにきれいなグリスを塗る図 16。

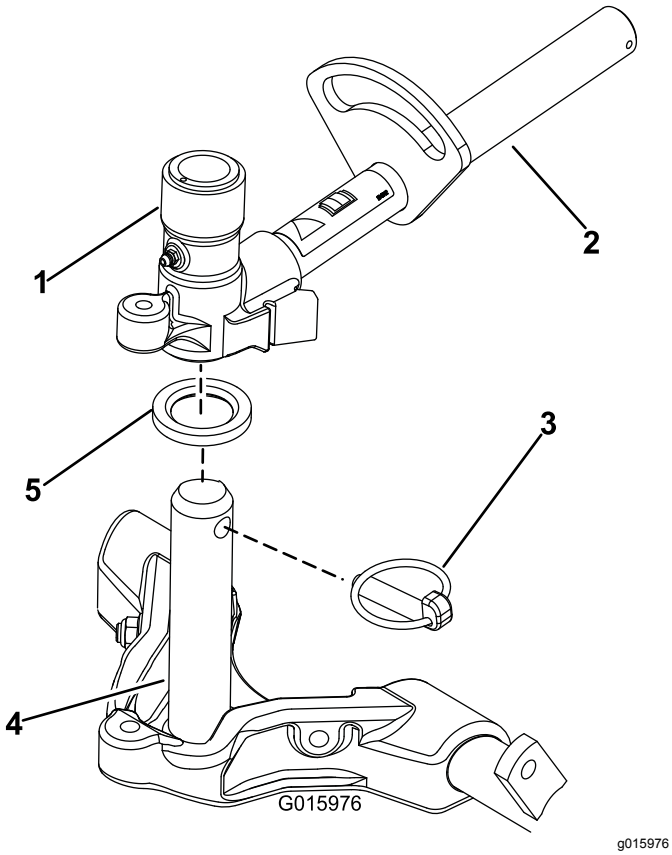


図 16

1. 昇降アームのピボットヨーク
2. 昇降アーム
3. クリックピン
4. キャリアフレームのシャフト
5. スラストワッシャ

10. フロントに取り付けるカッティングユニットは、昇降アームの下に入れるときにキャリアフレームのシャフトを昇降アームのピボットヨークに挿入する図 16。

    スラストワッシャがキャリアフレームのシャフトの所定位置にあることを確認すること。
11. クリックピンを使って、キャリアフレームシャフトを昇降アームのヨークに固定する図 16。
12. カッティングユニットが首振りしないように固定するには、スナッパピンを使ってピボットヨークをキャリアフレームに固定します図 17。

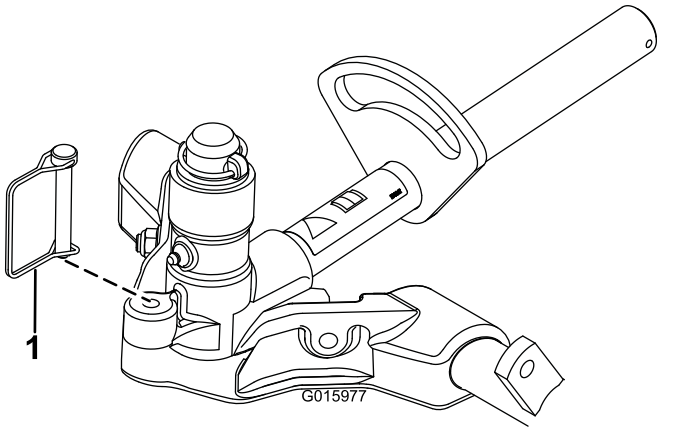


図 17

1. スナッパピン

注 法面の横断刈りでは、カッティングユニットを固定してください。

13. 刈高が 19 mm を超える場合、後カッティングユニットは以下の手順で調整する。
    A. 昇降アームのピボットシャフトを昇降アームに固定しているリンチピンとワッシャを外し、昇降アームからピボットシャフトを抜き出す図 18。

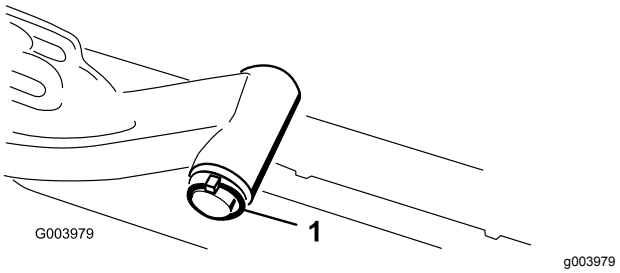


図 18

1. 昇降アームのピボットシャフトのリンチピンとワッシャ

    B. 昇降アームのヨークをキャリアフレームのシャフトに通す 図 16。
    C. 昇降アームのシャフトを昇降アームに通して、ワッシャとリンチピンで固定する 図 18。
14. スナッパピンで、昇降アームのチェーンをチェーンブラケットに固定する 図 19。

注 カッティングユニットの*オペレーターズマニュアル*に従って、決められたリンクを使用すること。

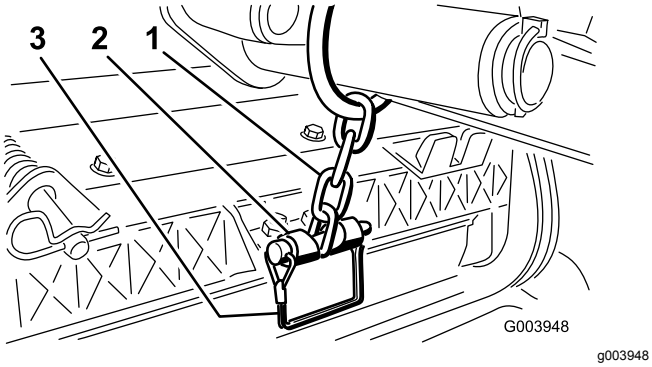


図 19

1. 昇降アームのチェーン
2. チェーンブラケット
3. スナッパピン

15. リールモータのスプラインシャフトにきれいなグリスを塗りつける。
16. リールモータのOリングにオイルを塗りつけ、モータのフランジに取り付ける。
17. モータを手に持ち、右回りにひねってモータのフランジをボルトから逃がしながら、キャップスクリュにモータをセットする(図 20)。

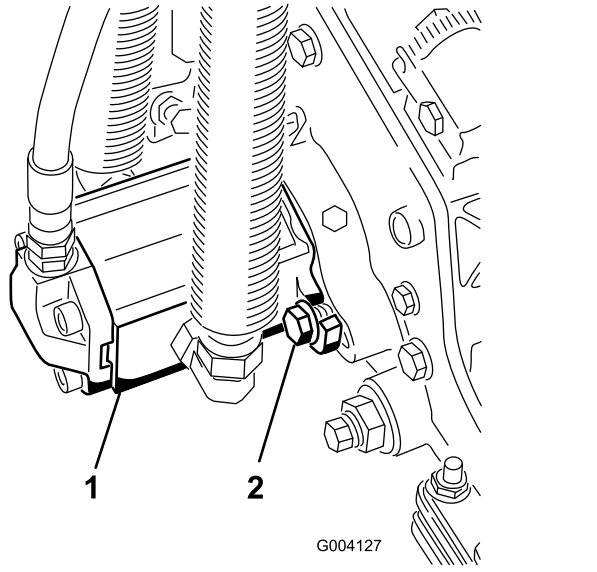


図 20

1. リール駆動モータ
2. 取り付けボルト

18. モータを左回りにひねってボルトにフランジをしっかりと掛け、ボルトを締めてモータを固定する。

重要 **リールモータの各ホースにねじれ、折れ、挟まれなどがないことを確認する。**

4

ターフ補正スプリングを調整する

必要なパーツはありません。

手順

ターフ補正スプリング図 21は、カッティングユニットの前から後ろへの「体重移動」を行う働きがあります。これにより、マーセリングやボビングと呼ばれる「波打ったような」仕上がりを防いでいます。

重要 **この調整は、カッティングユニットをトラクタに取り付け、ユニットを真っ直ぐ前に向けて床に降ろした状態で行ってください。**

1. スプリングロッドの後穴にヘアピンコッターを忘れずに取り付けてください図 21。

   注 カッティングユニットの整備を行う場合には、ヘアピンコッターを、ターフ補正スプリングの隣にあるスプリングロッドの穴に移してください。

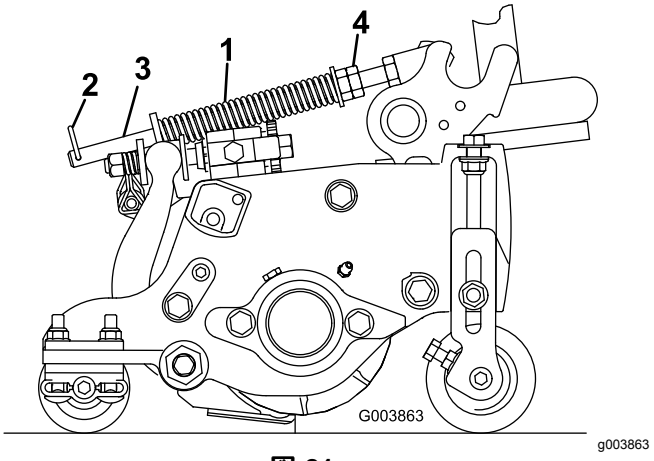


図 21

1. ターフ補正スプリング
2. ヘアピンコッター
3. スプリングロッド
4. 六角ナット

2. スプリングロッド前部の6角ナットを締めて、スプリング圧縮状態の長さが159 mm になるようにする図 21を参照。

   注 アップダウンの激しい場所で使用する時には、スプリングの長さを 13 mmに調整してください。地表追従性が若干下がります。

   注 刈高やカッティングユニットの姿勢を変更した場合には、ターフ補正スプリングの設定の調整が必要になります。

5

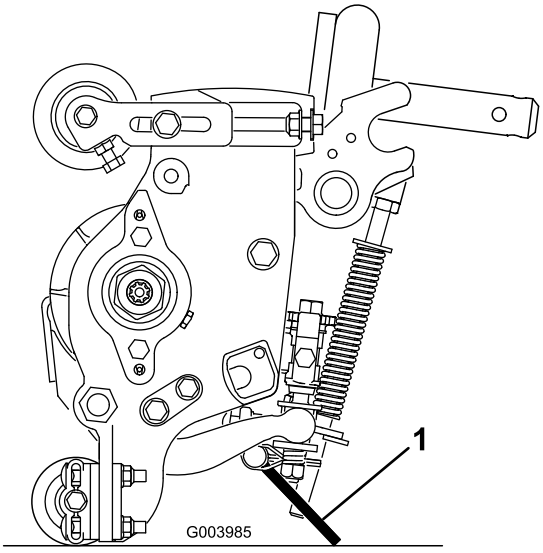
カッティングユニットのキックスタンドの使い方

この作業に必要なパーツ

1	カッティングユニットのキックスタンド

手順

ベッドナイフやリールを見るためにカッティングユニットを立てる場合には、ベッドバー調整ねじのナットが床面に接触しないように、カッティングユニットの後ろ側についているスタンドで支えてください図 22。

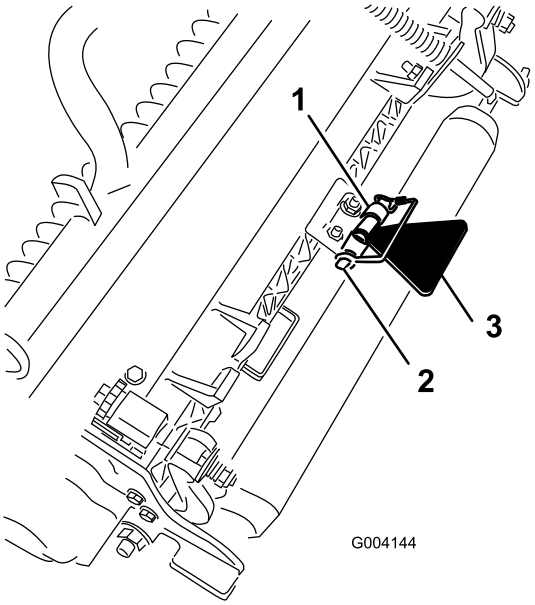


g003985

図 22

1. カッティングユニットのキックスタンド

スタンドを立てたら、スナッパピンでキックスタンドをチェーンブラケットに固定します図 23。



g004144

図 23

1. チェーンブラケット
2. スナッパピン
3. カッティングユニットのキックスタンド

6

グリスアップを行う

必要なパーツはありません。

手順

使用を開始する前に、各部の潤滑を行ってください。作業要領は潤滑 (ページ 38)ページに記載されています。この作業を怠るとマシンに急激な磨耗が発生しますから注意してください。

7

液量を点検する

必要なパーツはありません。

手順

1. エンジンを初めて作動させる前に、後アクスルオイルの量を点検する 後アクスルのオイル量を点検する (ページ 48) を参照。
2. エンジンを初めて作動させる前に、油圧オイルの量を点検する 油圧オイルの量を点検する (ページ 53) を参照。
3. エンジンを初めて作動させる前と使用後に、エンジンオイルの量を点検する エンジンオイルの量を点検する (ページ 41) を参照。

8

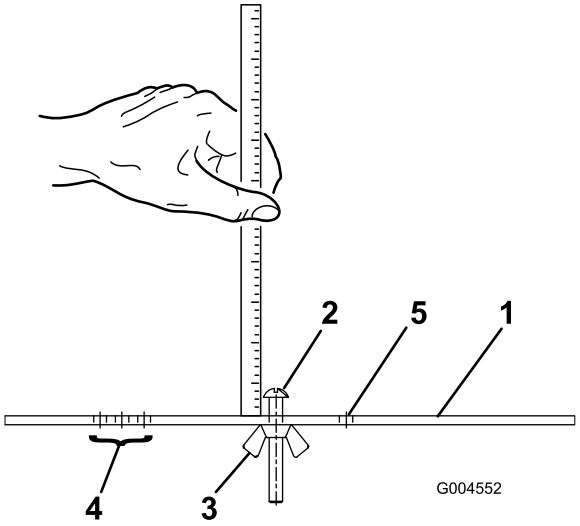
ゲージバーを使う

この作業に必要なパーツ

1	ゲージバー

手順

ゲージバーは刈高の調整に使用します。調整方法の詳細については、カッティングユニットの*オペレーターズマニュアル*を参照してください図 24。



g004552

図 24

1. ゲージバー
2. 高さ調整ねじ
3. ナット
4. グルーマ搭載時にグルーマの刃先の高さ調整に使う穴
5. 使用しない穴

9

CE デカルを貼り付ける

この作業に必要なパーツ

1	警告表示ステッカー
1	CE 用ステッカー
1	製造年表示ステッカー

手順

CE 規格に適合させる必要がある場合は、製造年デカルP/N 138-5615をシリアルプレートの近くに、CE デカルP/N 93-7252をフードロックの近くに、CE 警告デカルP/N 120-1186を標準警告デカルPart No. 133-1683の上から貼り付けてください。

製品の概要

各部の名称と操作

ブレーキペダル

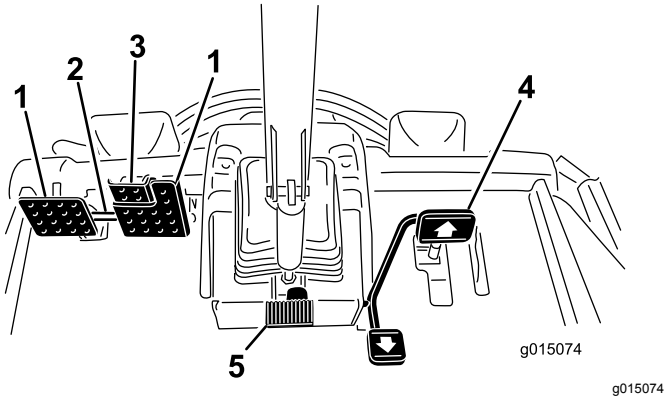
2枚のペダル図 25により左右の車輪を独立で制御し、旋回性能、駐車、斜面での走行性能を高めています。

ペダルロックのラッチ

ペダルのロック用ラッチ図 25を使って2枚のペダルを連結して駐車ブレーキを掛けます。

駐車ブレーキペダル

駐車ブレーキ図 25を掛けるには、ペダルロック用ラッチで2枚のペダルを連結し、右ブレーキペダルを踏み込みながら、つま先ペダルを踏み込みます。ブレーキを解除するには、駐車ブレーキラッチが解除される左右どちらかのペダルを踏み込みます。



g015074

図 25

1. ブレーキペダル
2. ペダルロックのラッチ
3. 駐車ブレーキペダル
4. 走行ペダル
5. チルト調整ペダル

走行ペダル

走行ペダル(図 25)は前進走行と後退走行を制御します。ペダル前部を踏み込むと前進、後部を踏み込むと後退です。走行速度はペダルの踏み込み具合で調整します。スロットルが 高速位置にある状態でペダルを一杯に踏み込むと最高速度となります。

ペダルの踏み込みをやめると、ペダルは中央位置に戻り、走行を停止します。

チルト調整ペダル

ハンドルを手前に寄せたい場合には、ペダル図 25を踏みこみ、ステアリングタワーを手前に引き寄せ、ちょうど良い位置になったら、ペダルから足を離します。

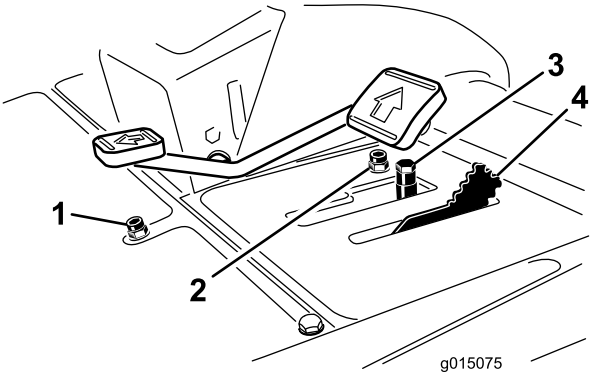
刈り込み速度リミッタ

刈り込み速度リミッタ図 26を上位置にセットすると、事前にセットしてある刈り込み速度での走行になり、カッティングユニットが回転できるようになります。スペーサ1枚で、速度が 0.8km/h 変化します。ボルトの上側のスペーサの数が増えるほど、走行速度が遅くなります。移動走行を行う時は、刈り込み速度リミッタを解除すると全速力での走行が可能になります。

スピードリミットねじ

これらのねじ図 26を使ってペダルの踏み込み深さを制限し、前進速度や後退速度を制限することができます。

重要 **これらのねじは、ポンプのストロークの範囲内で調整してください。ポンプのストローク限界を超えてペダルを踏み込むと、ポンプを破損する可能性があります。**



g015075

図 26

1. 後退速度制限ねじ
2. 前進速度制限ねじ
3. スペーサ
4. 刈り込み速度リミッタ

カッティングユニット操作レバー

リールが刈り込みモードになっているとき、このレバー図 27で、カッティングユニットの昇降操作と回転停止操作を制御します。カッティングユニット昇降レバーが移動走行位置にセットされているときには、カッティングユニットを下降させることができません。

キースイッチ

キースイッチ図 27には3つの位置があります OFF、ON/PREHEAT、STARTです。

インフォセンター

インフォセンター LCD ディスプレイは、マシンの運転状態、故障診断などの情報を表示します図 27。

PTO スイッチ

PTOスイッチ図 27にはSTARTとSTOPの2つの位置があります。PTO ボタンを前に押し込むとカッティングユニッ

トのブレードが回転を開始します。PTO ボタンを戻すとカッティングユニットのブレードが回転を停止します。

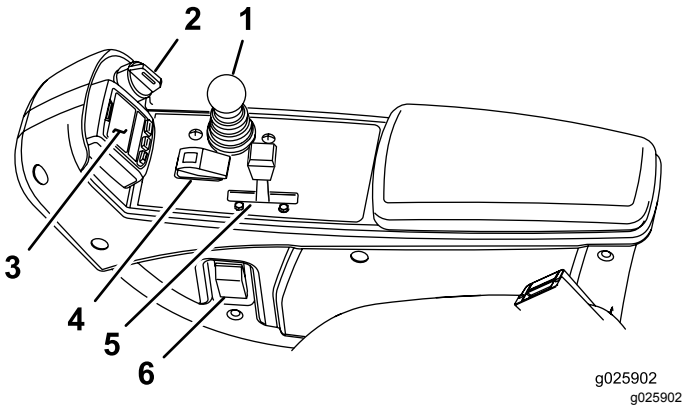


図 27

1. 昇降コントロールレバー
2. キースイッチ
3. インフォセンター
4. PTO スイッチ
5. エンジン速度スイッチ
6. ヘッドライトスイッチ

エンジン速度スイッチ

エンジン速度スイッチ図 27を前に倒すとエンジン回転速度が速くなり、後ろに引くと遅くなります。

ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトスイッチ図 27を下げるとヘッドライトが点灯します。

電源ソケット

電動アクセサリ用に電源ソケット図 28から12 Vの電源をとることができます。

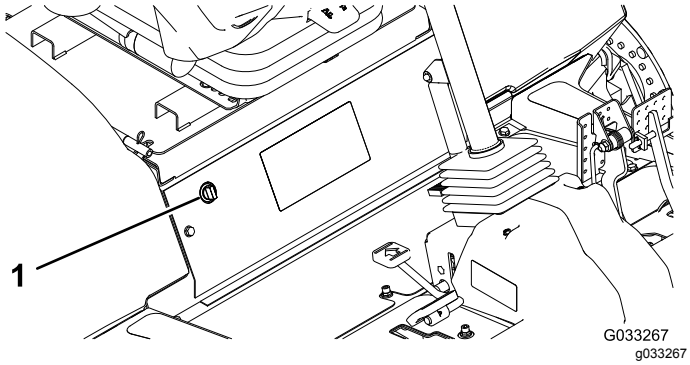


図 28

1. 電源ソケット

バッグホルダー

バッグホルダー図 29は物入れにお使いください。

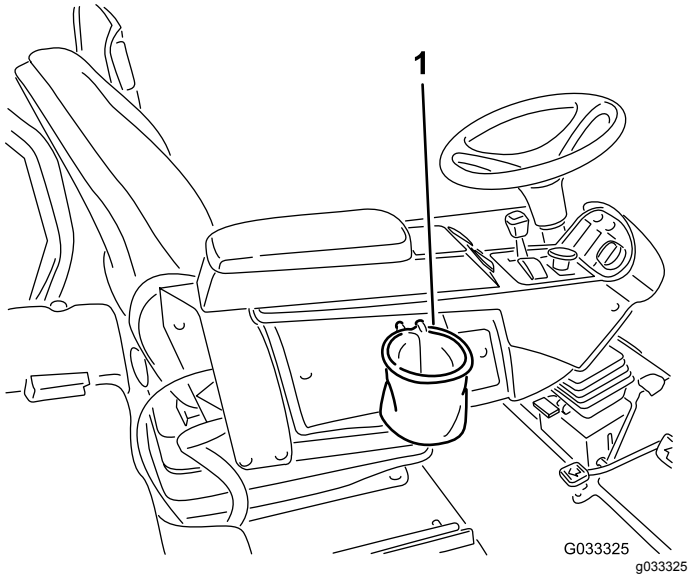


図 29

1. バッグホルダー

バックラップレバー

リールのバックラップを行うときに使用します図 30。

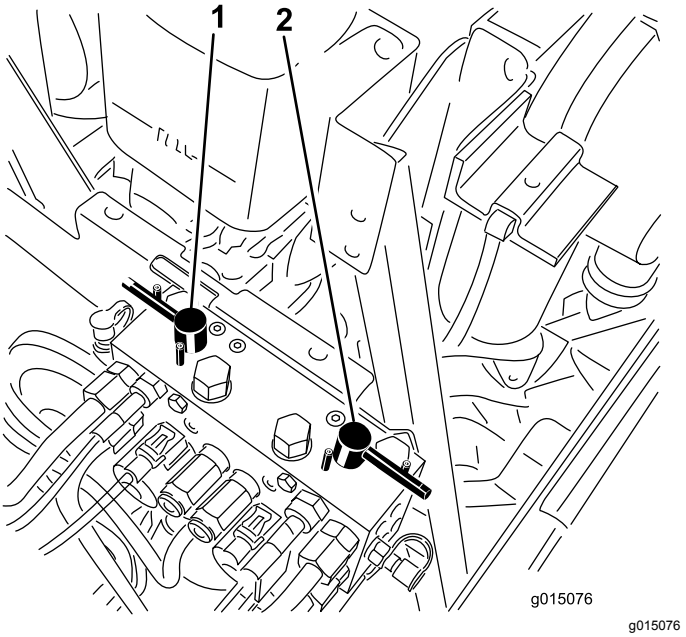


図 30

1. 前側バックラップレバー
2. 後側バックラップレバー

座席を調整する

座席調整レバー

レバーを引き出して座席の前後位置調整ができます図 31。

運転席アームレスト調整ノブ

ノブを回してアームレストの角度を調整することができます図 31。

背板調整レバー

レバー動かしてシートの背板の角度を調整します(図 31)。

体重調整ゲージ

適正位置に調整されると体重ゲージインジケータに表示が出ます図 31。運転席の高さも調整できますサスペンションを緑色の範囲で調整してください。

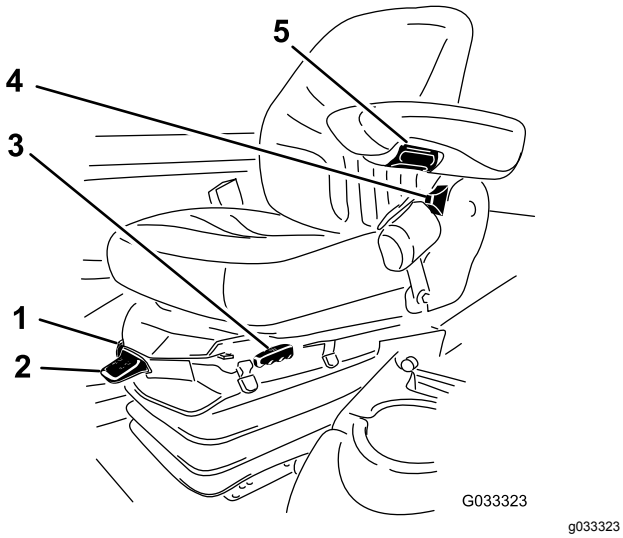


図 31

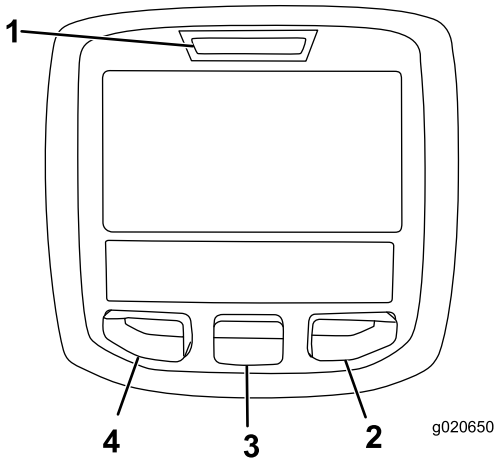
1. 体重調整ゲージ
2. 体重調整レバー
3. 座席調整レバー
4. 座席背板調整レバー
5. アームレスト調整ノブ

体重調整レバー

体重に合わせて調整します図 31。レバーを引き上げると空気圧が高くなり、押し下げると低くなります。体重ゲージが緑色の範囲に入れば、調整は適切です。

インフォセンターLCDの使い方

インフォセンター LCD は、運転状態、不具合診断など、マシンに関わる様々な情報を表示します図 32。インフォセンターには初期画面スプラッシュ画面とメイン画面があります。インフォセンターのどのボタンでも、押せば初期画面とメイン画面とをいつでも切り替えることができ、また、矢印ボタンで選択することによって、希望する項目の内容を確認することができます。



g020650

図 32

1. インジケータランプ
2. 右ボタン
3. 中央ボタン
4. 左ボタン

- 左ボタン, メニューアクセス/バック・ボタンこのボタンを押すと、インフォセンターのメニューが表示されます。メニュー表示中にこれを押せばメニューを終了します。
- 中央ボタンメニューを下向きにスクロールするときに使います。
- 右ボタン右向き矢印が表示されたとき、その先にあるメニュー項目を見るために使用します。
- ファンの手動逆転左右のボタンを同時に押します。
- ブザーデッキを下降させるときや、故障発見時などに音が鳴ります。

注 各ボタンの機能はメニューの内容によって、変わります。各ボタンについて、その時の機能がアイコンで表示されます。

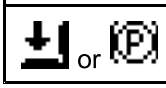
インフォセンターのアイコン

SERVICE DUE定期整備時期です	定期整備時期であることを示します
	次の整備までの時間
	整備時間をリセット🔒
	情報アイコン
	アワーメータ
	高速
	低速
	ファン逆転ファンが逆転しているときに表示されます
	エアインテークヒーターが作動中
	カッティングユニット上昇
	カッティングユニット下降
	オペレータが着席している必要があります
	駐車ブレーキ作動表示駐車ブレーキが掛かっていることを示します
H	レンジが「高速」
N	ニュートラル
L	レンジが「低速」
	冷却液温度エンジンの冷却液の温度を表示します表示単位は、 °C または °Fです。
	温度高温
	禁止または不許可
	PTOが入っています
	エンジン始動
	停止またはシャットダウン

インフォセンターのアイコン (cont'd.)

	エンジン
	キースイッチ
	カッティングユニットが下降中であることを示します
	カッティングユニットが上昇中であることを示します
PIN	PIN 暗証コード
	油圧オイル温度油圧オイルの温度を表示します。
CAN	CAN バス
	インフォセンター
Bad	不良または故障
	電球
OUT	TEC コントローラまたはコントロールワイヤハーネスからの出力
HI	高許容範囲を超えています
LO	高許容範囲に達していません
HI /LO	所定範囲外
	スイッチ
	スイッチを解除する必要があります
	表示されているモードに切り換えてください
表示記号を組み合わせた文章が表示されます。以下に文章の例を示します.	
N	マシンをニュートラルにセットしてください。
	エンジンの始動許可がおりません。
	エンジンをシャットダウンします
	冷却液が過熱しています

インフォセンターのアイコン (cont'd.)

	油圧オイルが過熱しています
	着席するか駐車ブレーキをかけてください

🔒 アクセスには PIN の入力が必要です

メニューの使い方

インフォセンターのメニューにアクセスするには、メニュー画面が表示されているときにメニューアクセスボタンを押します。ボタンを押すとメインメニューが表示されます。各メニューにおいてどのような内容が表示されるかは、以下の表をご覧ください。

メインメニュー	
メニュー項目	**内容**
Faults不具合	不具合メニューには、最近に記録された不具合が表示されます。 *サービスマニュアル*にFaults メニューおよびその内容の詳細が解説されています。または弊社ディストリビュータにお問い合わせください。
整備作業	整備メニューでは、使用時間積算記録などの情報を見ることができます。
Diagnostics診断機能	診断メニューでは、各スイッチ、センサー、制御出力の状態が表示されます。どのコントロール装置がONになっており、どれがOFFになっているかが表示されますから、故障探究を手早く行うことができます。
Settings設定	設定メニューではインフォセンターの表示や機械の設定を変更することができます。
Aboutマシンについて	このメニュー項目では、モデル番号、シリアル番号、ソフトウェアのバージョンなどを確認することができます。

Service整備	
メニュー項目	**内容**
Hours運転時間	マシン、エンジン、リール、およびPTOが使用されていた時間およびマシンが移動走行していた時間と定期整備までの時間が記録されており、これらを確認することができます
Counts回数	マシンに発生した様々な事象の回数を表示します.

Diagnostics診断機能	
メニュー項目	**内容**
Cutting Unitsカッティングユニット	カッティングユニットを上昇・下降させるための入力、許可、出力の状態を表示します
Hi/Low レンジ	移動走行モードで運転を行うための入力、許可、出力の状態を表示します
PTO	PTO回路を作動させるための入力、許可、出力の状態を表示します
Engine Runエンジン作動	エンジンを始動させるための入力、許可、出力の状態を表示します
Backlapバックラップ	バックラップを行うための入力、許可、出力の状態を表示します

Settings設定	
メニュー項目	**内容**
Units単位	インフォセンターで表示される項目の単位を選択することができます。ヤードポンド系またはメートル系から選択します。
Language言語	インフォセンターの表示に使う言語を選択することができます*
LCD Backlightバックライト	LCD 表示の明るさを調整します
LCD Contrastコントラスト	LCD 表示のコントラストを調整します
Front Backlap Reel Speed前ユニットのバックラップ速度	前方ユニットのバックラップ時のリール速度を設定します
Rear Backlap Reel Speed後ユニットのバックラップ速度	後方ユニットのバックラップ時のリール速度を設定します
Protected Menus保護項目	スーパーインテンデントや整備士のための情報で、パスワードを入力すると見ることができます。
Auto Idleオートアイドル 🔒	マシンの運転操作をしていない状態から自動的にアイドリングに移行するまでの時間の長さを設定します
Blade Count刃数 🔒	リール速度を計算するために必要な刃数です
Mow Speed刈込速度🔒	リール速度を決定するために必要な走行速度です
Height of cut HOC刈高 🔒	リール速度を決定するために必要な刈高です
F Reel RPM前リール rpm 🔒	前リールの回転速度計算値を表示します。リール速度は手動で調整することもできます
R Reel RPM後リール rpm 🔒	後リールの回転速度計算値を表示します。リール速度は手動で調整することもできます

*「オペレータ向け」のメッセージのみが翻訳表示されます。故障、整備、診断の画面は「整備士向け」メッセージです。タイトルは選択された言語で表示されますが、本文は英語表示となります。

🔒 保護メニューで保護されます — アクセスには PIN の入力が必要です

About マシンについて	
メニュー項目	**内容**
Modelモデル	マシンのモデル番号を表示します。
SN	マシンのシリアル番号を表示します。
Machine Controller Revisionコントローラ改訂番号	マスターコントローラのソフトウェアの改訂番号を表示します。
インフォセンターの改定番号	インフォセンターのソフトウェアの改訂番号を表示します。
CAN Bus	マシン内部の通信状態を表示します。

Protected Menus保護項目

インフォセンターの「設定」メニューで変更可能な項目は5つあります刃数、刈り込み速度、刈高、前リール速度、および後リール速度です。これらの設定は、Protectedパスワード保護メニューでロックすることができます。

注 納品時のパスワードは、代理店にて設定しています。

「パスワード保護メニュー」にアクセスするには

1. メインメニューから、下へスクロールしていくと設定メニューSettingsがありますから、ここで右ボタンを押します。
2. 「設定メニュー」で、下へスクロールしていくと保護メニューProtected Menusがありますから、ここで右ボタンを押します。
3. パスワードを入力するには、中央ボタンを押して最初の桁へ移動します。その後に右ボタンを押すと次の桁へ移動します。
4. 中央ボタンを押して2番目の桁の入力を行い、その後に右ボタンを押すと次の桁へ移動します。
5. 中央ボタンを押して3番目の桁の入力を行い、その後に右ボタンを押すと次の桁へ移動します。
6. 中央ボタンを押して4番目の桁の入力を行い、その後に右ボタンを押します。
7. 中央ボタンを押してコードを入力します。
8. コードが受け付けられて保護メニューが開くと、画面右上の部分に PIN という表示が現れます。

保護メニューの設定内容を閲覧・変更する権限を変更することができます。まず、保護Protectedメニューにアクセスし、下へスクロールして設定を保護Protect Settingsへ進みます。右ボタンを使って、設定を保護Protect SettingsをOFFにすると、パスワードを入力しなくても、保護メニューの内容を閲覧・変更することができるようになります。「設定を保護」をONにすると、保護されている内容は表示されなくなり、これらを閲覧・変更するにはパスワードの入力が必要となります。パスワードを入力した場合は、キースイッチをOFF にし、もう一度キーを ON にすると、このパスワードが記憶されます。

注 パスワードを忘れてしまった場合には、代理店にご連絡ください。

オートアイドルAuto Idleの設定方法

1. 設定メニューSettings Menuにて下へスクロールすると「オートアイドルAuto Idle」があります。
2. 右ボタンを使って、オートアイドル時間を、OFF, 8S, 10S, 15S, 20S, および 30S から選択します。

刃数の設定方法

1. 設定メニューSettings Menu下へスクロールすると「Blade Count」があります。
2. 右側のボタンを使用して、刃数を 5、8 または 11 から選択してください。

刈り込み速度の設定方法

1. 設定メニューSettings Menu下へスクロールすると「Mow Speed」があります。
2. 右側のボタンを使用して、刈り込み速度を選択してください。
3. 中央の右側のボタンを使って、走行ペダルの速度リミッタに、適当な刈り込み速度を設定してください。
4. 設定が終了したら左ボタンを押すと、設定内容を保存して設定が終了します。

刈高の設定方法

1. 設定メニューSettings Menu下へスクロールすると「HOC」があります。
2. 右側のボタンを使用して、刈高を選択してください。
3. 中央の右側のボタンを使って、適当な刈高を設定してください。

   注 ご希望の通りの刈高が表示されない場合には、表示されている数値の中から最も近いものを選んでください。
4. 設定が終了したら左ボタンを押すと、設定内容を保存して設定が終了します。

前後のリール速度の設定方法

前後のリールの速度は、刃数、刈り込み速度および刈高からインフォセンターが自動的に計算しますが、いろいろな刈り込み条件に対応するために速度設定を手動で変更することができるようになっています。

1. 変更するには、 F Reel RPM、R Reel RPM またはその両方までスクロールしてください。
2. 右側のボタンを使用して、リール速度を変更してください。設定の変更をしているとき、ディスプレイには、刃数、刈り込み速度および刈高に基づいて計算された以前と同じリール速度が表示されていますが、新しく入力した値も表示されます。

仕様

注 仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

トラクションユニットの仕様

刈り込み幅27" カッティングユニット	307 cm
刈り込み幅32" カッティングユニット	320 cm
全幅27" ユニット降下時	345 cm
全幅32" ユニット降下時	358 cm
全幅カッティングユニット上昇時	239 cm
全長	370 cm
高さROPSを含む	220 cm
トレッド前輪	229 cm
トレッド後輪	141 cm
ホイールベース	171 cm
純重量カッティングユニットと油脂類を含まない	1574 kg

アタッチメントとアクセサリ

トロが認定した各種のアタッチメントやアクセサリがそろっており、マシンの機能をさらに広げることができます。 詳細は弊社の正規サービスディーラ、または代理店へお問い合わせください 弊社のウェブサイト www.Toro.com でもすべての認定アタッチメントとアクセサリをご覧になることができます。

いつも最高の性能と安全性を維持するために、必ずToroの純正部品をご使用ください。他社の部品やアクセサリを御使用になると危険な場合があり、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

運転操作

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

運転の前に

運転前の安全確認

安全に関する一般的な注意

- 子供やトレーニングを受けていない大人には、絶対に運転や整備をさせないでください地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。オーナーは、オペレータ全員にトレーニングを受講させる責任があります。
- 安全な運転操作、各部の操作方法や安全標識などに十分慣れておきましょう
- エンジンを停止させ、キー付きの機種ではキーを抜き取り、各部の動作が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行う。
- エンジンの緊急停止方法に慣れておきましょう。
- ガードなどの安全保護機器が正しく機能していない時は、運転しないでください。
- 使用前に必ず、カッティングユニットの点検を行ってください。
- これから機械で作業する場所をよく確認し、機械に巻き込まれそうなものはすべて取り除きましょう。

燃料についての安全事項

- 燃料の取り扱いに際しては安全に特にご注意ください。燃料は引火性が高く、気化すると爆発する可能性があります。
- 燃料取り扱い前に、引火の原因になり得るタバコ、パイプなど、すべての火気を始末してください。
- 燃料の保管は必ず認可された容器で行ってください。
- エンジン回転中などエンジンが高温の時には、燃料タンクのふたを開けたり給油したりしないでください。
- 締め切った場所では燃料の補給や抜き取りをしないでください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管格納しないでください。
- 燃料がこぼれたら、エンジンを始動せずにマシンを別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけないでください。

毎日の整備作業を実施する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

毎日の運転前に、保守 (ページ 35)に記載されている「使用ごと/毎日の典型整備」を行ってください。

燃料を補給する

燃料タンク容量

83 リットル

燃料についての仕様

以下の注意を守らないと、エンジンを破損させる場合があります。

- 絶対に、ディーゼル燃料の代わりに灯油やガソリンを使わないでください。
- 絶対に、灯油やガソリンをディーゼル燃料に混入しないでください。
- 絶対に、内面に亜鉛メッキされている容器で燃料を保管しないでください。
- 燃料用添加剤を使用しないでください。

ディーゼル燃料

硫黄分の少ない微量500ppm 未満、または極微量15ppm 未満の新しい軽油またはバイオディーゼル燃料以外は使用しないでください。セタン値が 40以上のものをお使いください。燃料の劣化を避けるため、180日以内に使いきれる程度の量を購入するようにしてください。

気温が -7°C 以上では夏用燃料2号軽油を使用しますが、気温が -7°C 以下の季節には冬用燃料1号軽油または1号と2号の混合を使用してください。低温下で冬用ディーゼル燃料を使うと、発火点や流動点が下がってエンジンが始動しやすくなるばかりでなく、燃料の成分分離ワックス状物質の沈殿によるフィルタの目詰まりを防止できるなどの利点があります。

気温が -7 ℃ 以上の季節には夏用燃料を使用する方が、燃料ポンプの寿命を延ばします。

バイオディーゼル

この機械はバイオディーゼル燃料を混合したB20燃料バイオディーゼル燃料が20、通常軽油が80を使用することができます。ただし、混合されている軽油のイオウ含有量は低レベルまたは極低レベルである必要があります。以下の注意を守ってお使いください。

バイオディーゼル燃料の仕様 ASTM D6751 または EN14214

ブレンド燃料の仕様について ASTM D975 または EN590

以下の注意を守ってお使いください。

- 着色したターフを汚す可能性があります。
- 寒い地方ではB5バイオディーゼル燃料が5またはそれ以下の製品を使用すること。
- 燃料と直接接触する部材、すなわちシール、ホース、ガスケットなどの経時劣化が早まる可能性がありますから、適切に点検してください。
- バイオディーゼル混合燃料に切り替えてからしばらくの間は燃料フィルタが目詰まりを起こす可能性があります。
- 詳細については弊社代理店におたずねください。

燃料を補給する

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 燃料タンクの補給口付近をよごれのないウェスできれいにぬぐう。
3. 燃料タンクのキャップ図 33を取る。

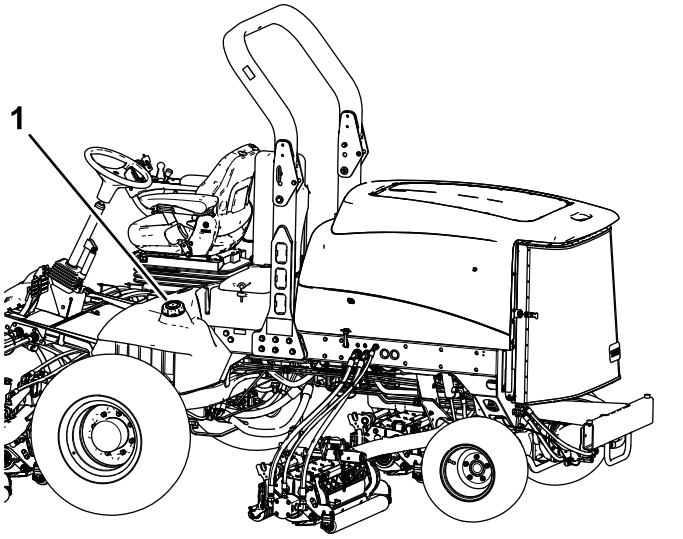


図 33

1. 燃料タンクのキャップ

4. 補給管の下まで燃料を入れる。
5. 燃料補給後は、燃料タンクのキャップを取りつけて十分に締め付ける。

   注 可能であれば、作業後に毎回燃料を補給しておくようにしてください。これにより燃料タンク内の結露を少なくすることができます。

運転中に

運転中の安全確認

安全に関する一般的な注意

- オーナーやオペレータは自分自身や他の安全に責任があり、オペレータやユーザーの注意によって物損事故や人身事故を防止することができます。
- 作業にふさわしい服装をし、安全めがね、長ズボン、頑丈で滑りにくい安全な靴、および聴覚保護

具を着用してください。長い髪は束ねてください。ゆるい装飾品やだぶついた服は身に着けないでください。

- 疲れている時、病気の時、アルコールや薬物を摂取した時は運転しないでください。
- この機械を運転する時は常に十分な注意を払ってください。運転中は運転操作に集中してください注意散漫は事故の大きな原因となります。
- エンジンを掛ける前に、全部の駆動装置がニュートラルであること、駐車ブレーキが掛かっていることを確認し、運転席に着席してください。
- 人を乗せないでください。また、作業中は周囲から人、特に子供を十分に遠ざけてください。
- 運転は、穴や障害物を確認できる十分な照明のもとで行ってください。
- ぬれた芝の刈り込みは避けてください。接地力が落ちてスリップする危険が高くなります。
- カッティングユニットに手足を近づけないでください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは安全に十分注意してください。
- 刈り込み中以外は必ずカッティングユニットを止めておいてください。
- 旋回するときや道路や歩道を横切るときなどは、減速し周囲に十分な注意を払ってください。常に道を譲る心掛けを。
- エンジンは換気の十分確保された場所で運転してください。排気ガスには致死性ガスである一酸化炭素が含まれています。
- エンジンの掛かっているマシンからは離れないでください。
- 運転席を離れる前に
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、アタッチメントを降下させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーのある機種ではキーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
- 機械の運転は十分な視界の確保ができる適切な天候条件のもとで行ってください。落雷の危険がある時には運転しないでください。

横転保護バーROPSについての安全確認

- POPSは機体から**外さない**でください。
- 必ずシートベルトを着用し、緊急時にはシートベルトを迅速に外せるよう練習しておいてください。
- 頭上の障害物に注意し、これらに衝突しないように注意してください。
- ROPS自体に損傷がないか、また、取り付け金具がゆるんでいないか、定期的に十分に点検を行い、万一の際に確実に役立つようにしておいてください。
- ROPSが破損した場合は新しいものに交換してください。修理したり改造しての使用はしないでください。

折りたたみ式 ROPS 搭載機

- ROPSは立てた状態にセットし、必ずシートベルトと共にお使いください。
- ROPS横転保護バーはマシンと一体で使用する重要な安全装置です。運転するときには必ずROPS横転保護バーを運転位置に立て、シートベルトを着用してください。
- どうしても必要なわずかの時間以外には ROPS を降ろさないでください。。ROPS を下げた状態で乗車する時にはシートベルトをしないでください。
- ROPS を折りたたんでしまうと、転倒時に安全保護ができなくなることを十分認識してください。
- 作業場所を必ず事前に確認してください。法面、段差、水などがある現場では、必ず ROPS を立てて運転してください。

斜面での安全確保

- 斜面はスリップや転倒などを起こしやすく、これらは重大な人身事故につながります。斜面での安全運転はオペレータの責任です。どんな斜面であっても、通常以上に十分な注意が必要です。
- 斜面については、実地の測定を含めてオペレータ自身が調査を行い、安全に作業ができるかどうかを判断してください。この調査においては、常識を十分に働かせてください。
- 以下に掲載している斜面での運転上の注意点やその場合の天候条件および場所の条件などについて、また、この機械を使用できるかどうかを判断する方法について、オペレーターズマニュアルで確認してください。同じ斜面上であっても、地表面の条件が変われば運転条件が変わります。
- 斜面での発進・停止・旋回は避けてください。急に方向を変えたり急な加速やブレーキ操作をしないでください。旋回は速度を落としてゆっくりと行ってください。
- 走行、ステアリング、安定性などに疑問がある場合には運転しないでください。
- 隠れた穴、わだち、盛り上がり、石などの見えない障害は、取り除く、目印を付けるなどして警戒してください。深い芝生に隠れて障害物が見えないことがあります。不整地では機体が転倒する可能性があります。
- ぬれ芝、急斜面など滑りやすい場所で運転すると滑って制御できなくなる危険があります。駆動力を失うと、スリップを起こしたりブレーキや舵取りができなくなる恐れがあります。
- 段差、溝、盛り土、水などの近では安全に十二分の注意を払ってください。万一車輪が段差や溝に

落ちたり、地面が崩れたりすると、機体が瞬時に転倒し、非常に危険です。必ず安全距離を確保してください。

- 斜面に入る前に、安全の判断をしてください。乗用の刈り込み機械で斜面を刈り込むことに危険が感じられる場合は歩行型の機械をお使いください。
- 斜面では可能なかぎりカッティングユニットを地表面まで下げておいてください。斜面上でカッティングユニットを上昇させると機体が不安定になる恐れがあります。
- 集草装置などのアタッチメントを取り付けての作業には十分な注意を払ってください。アタッチメントによってマシンの安定性が変わり、安全限界が変わる場合がありますからご注意ください。

エンジンの始動手順

重要 **以下の場合には、燃料システムのエア抜きを実施する必要があります**

- 燃料切れでエンジンが停止した時
- 燃料系統の整備作業を行った時

1. 走行ペダルから足を外し、ペダルがニュートラル位置にあることを確認する。

   注 駐車ブレーキが掛かっていることを確認する。
2. エンジン速度スイッチをローアイドル位置にセットする。
3. キーを RUN 位置に回す。

   注 グローランプの点灯を確認する。
4. グローランプが消えたら、キーをSTART位置に回す。
5. エンジンが始動したらすぐにキーから手を放す。キーは RUN 位置に戻る。
6. エンジン速度の調整を行う。

   重要 **スタータモータのオーバーヒートを防止するため、スタータは15秒間以上連続で回転させないでください。15秒以内にエンジンを始動できなかった場合には、キーを一度 OFF 位置に戻し、各設定および始動手順が正しいことを確認の上、15秒間の間隔をあけてもう一度始動を試みてください。**

   気温が -7°C 未満のときは、スタータモータを 30 秒間連続で作動させられます。その後は 60 秒間休止してください。2回まで可能です。

⚠ 注意

可動部に触れると非常に危険である。

機体の点検を行う前に、機械の可動部がすべて完全に停止していることを必ず確認すること。

エンジンの停止手順

重要 **高負荷で運転した後は、エンジンを停止させる前に5 分間程度のアイドリング時間をとってください。こうすることにより、エンジン停止前にターボチャージャの温度を下げることができます。これを怠るとターボチャージャにトラブルが発生する可能性があります。**

注 駐車した時は、必ず刈り込みデッキを地表面まで降ろしてください。これにより、油圧系統の負荷がなくなり、各部やパーツの磨耗が少なくなるだけでなく、カッティングユニットが不意に落下するなどの事故を防ぐことができます。

1. エンジンをローアイドル速度に戻す。
2. PTO スイッチをOFF 位置にする。
3. 駐車ブレーキを掛ける。
4. キーを OFF 位置に回す。
5. 事故防止のため、キーは抜き取っておく。

昇降アームのカウンタバランスを調整する

凹凸の激しいターフで一定の刈高にカット、サッチが厚くたまっているターフで削らないように刈るなど、様々なターフ条件に合わせて、後カッティングユニットの昇降アームについているカウンタバランスを調整することができます。

各カウンタバランスを、4種類の設定のうちの1つに設定してください。位置をつずらすごとに、カッティングユニットに掛かる圧力が 2.3kg 増加または減少します。カウンタバランスをゼロにしたい場合には、スプリングを第1スプリングアクチュエータの裏側第4番目の位置にセットしてください。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 調整作業の最中に、スプリングのテンションが掛からないようにするため、スプリングの長い方の端にパイプなどを通してスプリングの力を殺しておく図 34 。

⚠ 注意

スプリングには強い張力がかかっており、不用意に取り扱うとけがをする。

スプリングを調整する時には十分注意すること。

3. スプリングのテンションをなくしたら、スプリングアクチュエータを固定しているボルトとロックナットを外す図 34 。

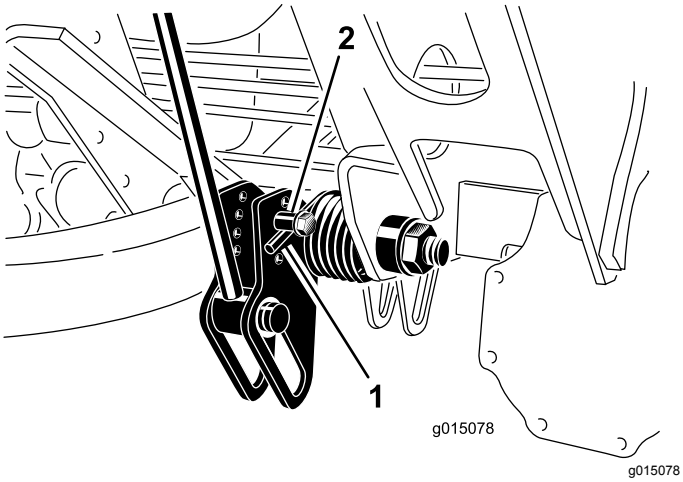


図 34

1. スプリング
2. スプリングアクチュエータ

4. スプリングアクチュエータを希望する穴に取り付け、ロックナットで固定する。
5. 残りのスプリングにも同じ調整を行う。

昇降アームの旋回位置を調整する

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 昇降アームスイッチは、前右昇降アームの裏側にあります図 35。

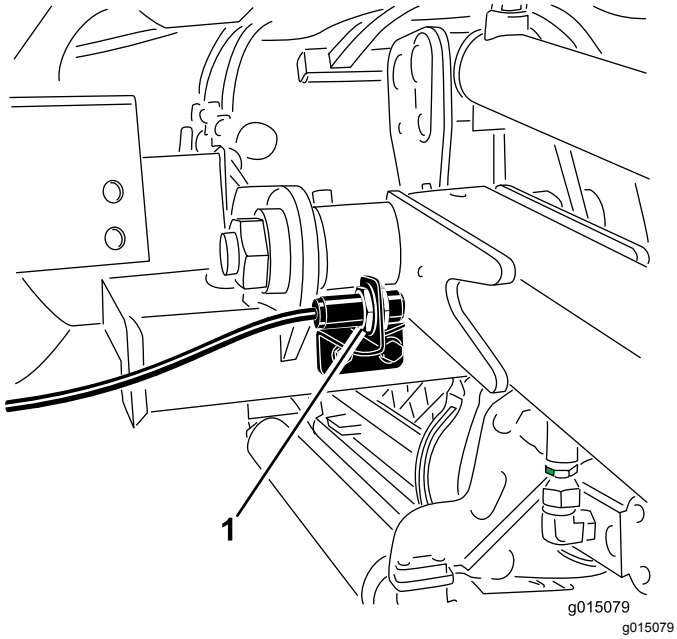


図 35

1. スイッチ

3. スイッチの取り付けねじ図 35をゆるめ、スイッチの位置を上げると、昇降アームの旋回高さが高くなり、下げると、昇降アームの旋回高さが低くなる。
4. 取り付けボルトを締め付ける。

ROPSを折りたたむ

天井の低い場所を通過することができるように、ROPSは折りたたみ式になっています。

⚠ 警告

折りたたまれた状態のROPSは車両が横転した際に保護機能を果たしません。立てていないROPSはROPSではありません。

ROPS を下げて運転する時にはシートベルトをしないでください。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. ROPS の上部フレームを支えておいて、ピボットブラケットからスナップピンとクレビスを外す図 36。

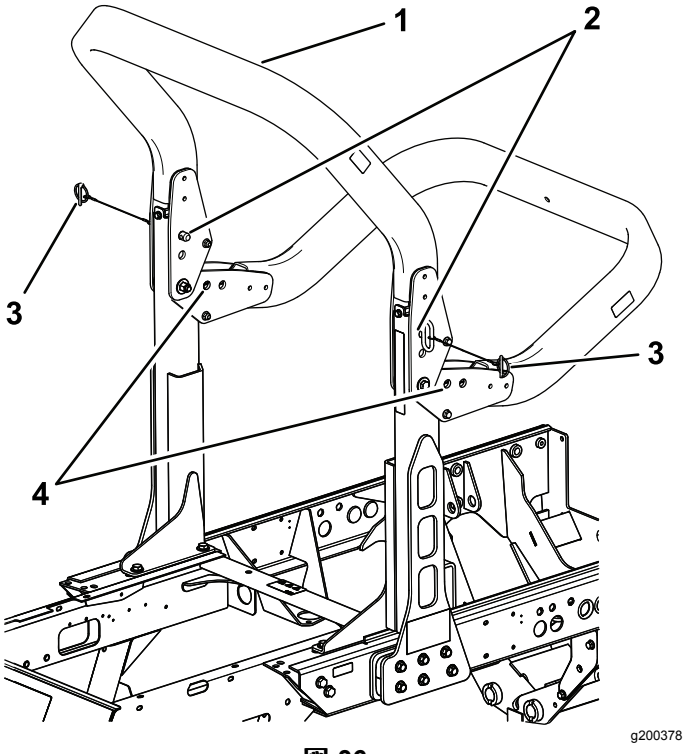


図 36

1. 上部フレーム
2. クレビスピン
3. スナップピン
4. 下の穴

3. ROPSを注意深く倒してストップで支える。
4. クレビスピンを下側の穴に差し込み、スナップピンで固定して上部フレームを倒した状態に固定する。
5. ROPSを立てるときは、上記の手順を逆の順に行ってください。

⚠ 警告

ROPS のリテーナボルトアセンブリがゆるんでいると、ROPS が機能を果たさない危険があり、万一そのような事態になると死亡事故を含む重大な人身事故に発展する恐れがある。

ROPSを立てた状態では、左右両方のリテーナボルトアセンブリを正しく差し込んで十分に締め付け、ROPSを確実に支えること。

⚠ 警告

ROPS の折りたたみや立ち上げ作業に当たっては、固定部と可動部との間に指などを挟まれる可能性がある。

固定部と可動部との間に指などを挟まれないよう、ROPSの折りたたみや立ち上げ作業は十分注意して行うこと。

- 常に機械全体の安全を心掛け、また、ボルト、ナット、ねじ類が適切に締まっているかを確認してください。
- 磨耗したり破損したりしている部品は安全のために交換してください。
- シートベルトとその取り付け部が適切に機能していることを確認してください。
- ROPSを立てて乗車している時はシートベルトを着用し、ROPSを下げて乗車している時はシートベルトをしないでください。

***重要*ROPS横転保護バーは車両と一体で使用する安全装置です。機械を運転するときは、常に立てた位置にロックしておいてください。どうしても必要な場合以外にはROPSを降ろさないでください。**

インタロックスイッチの動作を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

⚠ 注意

インタロックスイッチは安全装置でありこれを取り外すと予期せぬ人身事故が起こり得る。

- **インタロックスイッチをいたずらしない。**
- **作業前にインタロックスイッチの動作を点検し、不具合があれば作業前に交換修理する。**

本機には、電気系統にインタロックスイッチが組み込まれています。インタロックスイッチは、オペレータが座席から立ち上がっているのに走行ペダルが踏まれた場合にエンジンを停止させます。走行ペダルがニュートラル位置にある時にはオペレータが座席を離れてもエンジンは停止しません。PTOスイッチがOFFになっていて走行ペダルを踏み込んでいなければ、立ち上がってもエンジンは停止しませんが、運転席を離れる場合には、エンジンを停止させる習慣をつけるようにしてください。

インタロックスイッチの点検手順は以下の通りです

1. ゆっくりとした速度で、比較的広い、障害物のない場所に移動する。
2. カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させて、駐車ブレーキを掛ける。
3. 着席し、走行ペダルを踏み込む。
4. エンジンを始動させてみる。

   注 クランキングしなければ正常。クランキングする場合はインタロックスイッチが故障しているので、必ず運転前に修理する。
5. 着席し、エンジンを始動させる。
6. 運転席から立ち上がって、PTOスイッチをONにする。

   注 PTOが回転を開始しなければ正常。PTOが回転する場合はインタロックスイッチが故障しているので、必ず運転前に修理する。
7. 着席し、駐車ブレーキを掛け、エンジンを始動させる。
8. 走行ペダルをニュートラル位置から前進または後退に踏み込む。

   注 エンジンが停止すれば正常。エンジンが停止しない場合はインタロックスイッチが故障しているので、必ず運転前に修理する。

ヒント

運転操作に慣れる

実際に芝刈りを始める前に、安全な場所で運転操作に十分慣れておいてください。エンジンの始動と停止、前進走行と後退走行、カッティングユニットの回転、停止、昇降動作などを十分に練習してください。操作に慣れてきたら、斜面の上り下りや速度を変えての運転も練習しましょう。

警告システムについて

作業中に警告灯が点灯したら、直ちに機械を停止し原因を確認してください。異常を放置したまま作業を続けると本機に重大な損傷を招く可能性があります。

刈り込み

エンジンを始動し、エンジン速度スイッチを 高速 位置にセットする。刈り込み速度リミッタを刈り込み位置にセットする。PTO スイッチを ON 位置にセットし、昇降スイッチでカッティングユニットを下降させます 前方のカッティングユニットは、後方のカッティングユニットより

も早く降りてきます。走行ペダルを前進側に踏み込めば刈り込みが始まります。

移動走行モードでの運転

PTO スイッチを OFF にし、カッティングユニットを移動走行位置まで上昇させます。刈り込み速度リミッタを「移動走行」位置にセットします。狭い場所を通り抜ける時、カッティングユニットをぶつけて損傷しないよう十分注意してください。斜面の通行には最大の注意を払ってください。また、転倒事故を防止するために、速度の出しすぎや急旋回に十分注意してください。

運転終了後に

運転終了後の安全確認

安全に関する一般的な注意

- エンジンを停止させ、キー付きの機種ではキーを抜き取り、各部の動作が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行う。
- 火災防止のため、カッティングユニットや駆動部、マフラー、冷却スクリーン、エンジン構成品の周囲に、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
- 格納保管中やトレーラで輸送中は、燃料バルブを閉じておいてください。
- 移動走行時など、刈り込みなどの作業をしていない時には、アタッチメントの駆動を解除しておいてください。
- 必要に応じてシートベルトの清掃と整備を行ってください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管格納しないでください。

トレーラへの積み込み

- 機械をトレーラやトラックに積み込む際には、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- 車体が落下しないように確実に固定してください。

ロープ掛けのポイント

ロープ掛けポイントは以下の通りです

- 機体前部左右の前ステップ
- 機体後部後バンパー

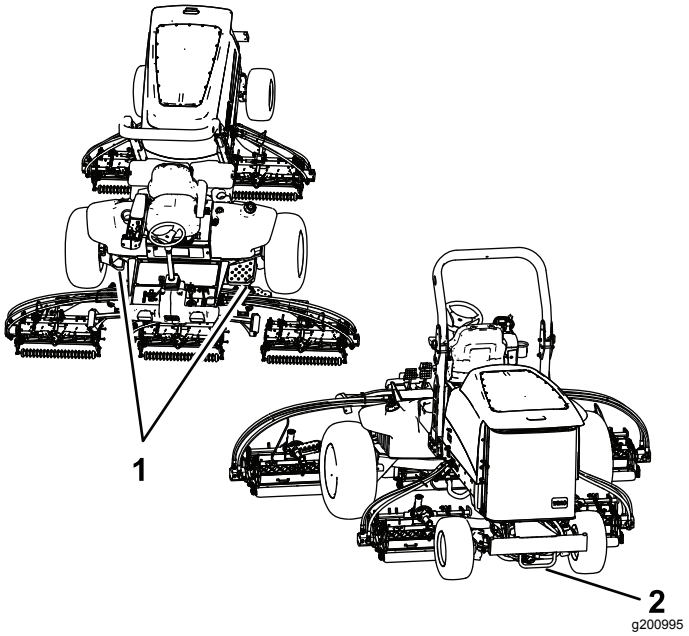


図 37

1. 車両前部のロープ掛けポイント
2. 機体後部のロープ掛けポイント

ジャッキアップポイント

注 機体の下で作業する場合には、必ずジャッキスタンドで機体を確実に支えてください。

ジャッキアップ箇所は以下の通りです

- 機体前部左右の駆動輪の内側のフレーム
- 機体後部アクスルの中央

緊急時の牽引移動

緊急時には、可変吐出油圧ポンプについているバイパスバルブを開き、油圧ホースをつないでチェックバルブをバイパスすると、本機を牽引または押して移動することができます。

***重要*トランスミッションを保護するために、牽引または押して移動する時の速度は、3-4.8 km/h 未満とし、移動距離は 400m 未満としてください。本機を押して或いは引いて移動させる場合には、必ずバイパスバルブを開く必要があります。さらに、本機を押して引いて移動させる場合には、必ず油圧ホースを使ってチェックバルブをバイパスする必要があります。**

本機を押して引いて移動させる場合、前進・後進の両方向に移動させる必要が出てくる場合が多いと考えられます。押しても引いても機器に損傷を与えることのないよう、前進・後進の両方向に移動できるように準備しておくことをお奨めします。

後退方向に押して引いて移動させるための準備

重要 **機械を後ろに押して移動させる場合には、最初に4輪駆動マニホルドのチェックバルブをバイパスさせる必要があります。**

この作業のためには以下のパーツが必要となります

- Toro パーツ番号59-7410診断用フィッティング
- Toro パーツ番号354-79診断用フィッティングキャップ
- Toro パーツ番号95-8843油圧ホース
- Toro パーツ番号95-0985カップラ用フィッティング2個
- Toro パーツ番号340-77油圧フィッティング2個

1. 後部走行マニホルドのポート M8 と P2 との間にあるマークなしのポートに故障診断用フィッティングを取り付ける図 38。

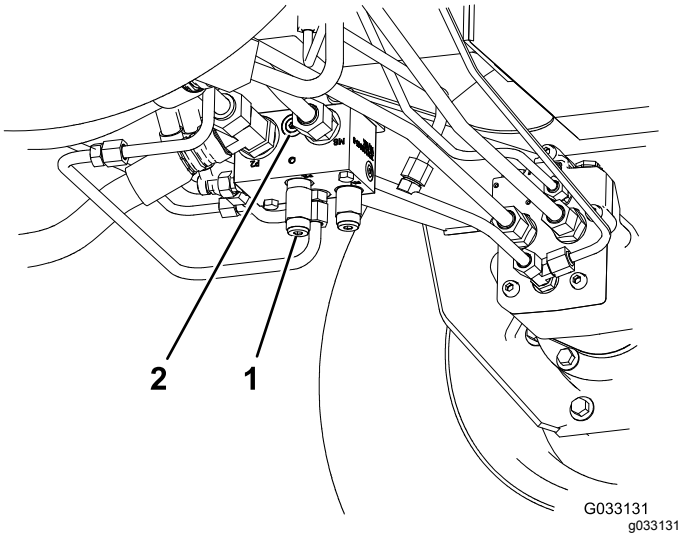


図 38

1. 後部走行マニホルド左前輪の後ろ　2. マークなしのポート

2. 後部走行マニホルドに取り付けた故障診断用フィッティングと後退走行油圧テストポートとを油圧ホースでつなぐ図 39。

   注 必要に応じて油圧フィッティングとカップラ用フィッティングを使用してホースを取り付けてください。

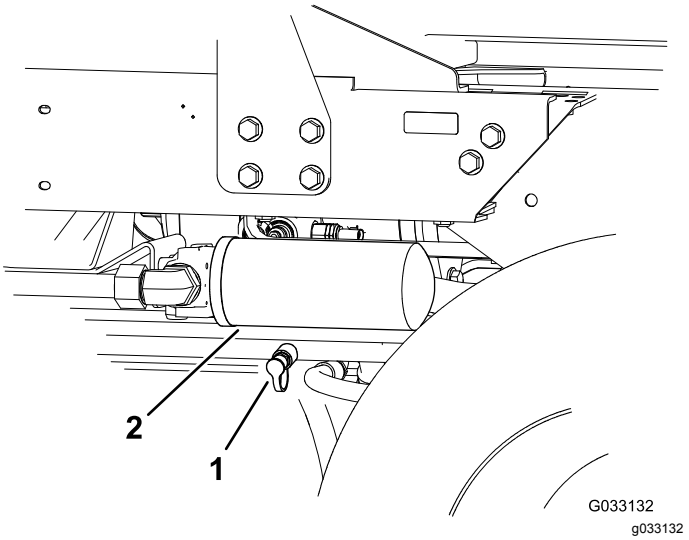


図 39

1. 後退走行油圧テストポート　2. 油圧オイル戻りフィルタ

3. バイパスバルブを右または左に90°回転4分の1回転 させるとバルブが開いて内部でバイパスが形成される図 40。

   注 オイルがバイパスされ、トランスミッションを破損することなく機械を押して移動できるようになります。

   バルブを開けた状態と閉じた状態を覚えておいてください。

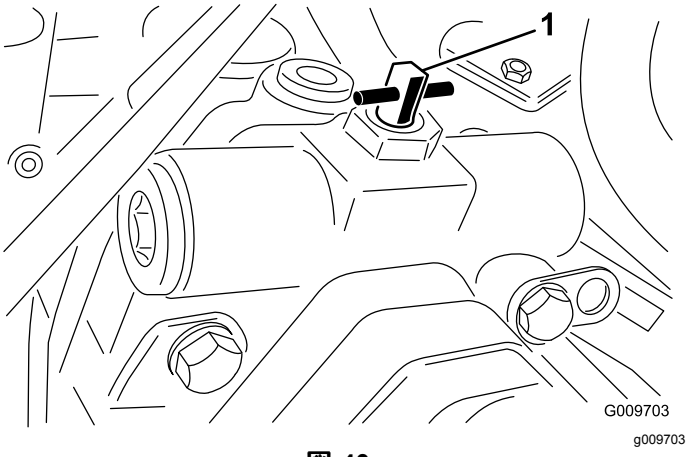


図 40

1. バイパスバルブ

4. マシンの手押し牽引移動が終了したら、油圧ホースを取り外す。
5. 後退走行油圧テストポートに、元通りにキャップを取り付ける。
6. マニホルドに取り付けた故障診断用フィッティングにキャップを取り付ける。
7. エンジンを掛ける時にはバルブを元通りに90度¼回転閉める。

注 バルブの締め付けトルクが 7-11 N·m 0.7-1.1 kg.m = 5-8 ft-lbを超えないようにすること。

緊急時の牽引移動前進方向のみの場合

機械を前進方向のみに移動させる場合には、バイパスバルブを開くだけで移動できるようになります。

重要 **機械を前進・後退の両方向みに移動させる場合には、 後退方向に押して引いて移動させるための準備 (ページ 33)を参照してください。**

1. フードを開けて中央のシュラウドを外す。
2. バイパスバルブを右または左に90°回転¼分の1回転 させるとバルブが開いて内部でバイパスが形成される図 40。

   注 オイルがバイパスされ、トランスミッションを破損することなく機械を前進方向に押して移動できるようになります。

   バルブを開けた状態と閉じた状態を覚えておいてください。
3. エンジンを掛ける時にはバルブを元通りに90度¼回転閉める。

   注 バルブの締め付けトルクが 7-11 N·m 0.7-1.1 kg.m = 5-8 ft-lbを超えないようにすること。

保守

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

保守作業時の安全確保

- 運転席を離れる前に
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、アタッチメントを降下させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーのある機種ではキーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
- 保守作業は、各部が十分冷えてから行ってください。
- 可能な限り、エンジンを回転させながらの整備はしないでください。可動部に近づかないでください。
- 機体の下で作業する場合には、必ずジャッキスタンドで機体を確実に支えてください。
- 機器類を取り外すとき、スプリングなどの力が掛かっている場合があります。
- マシン各部が良好な状態にあり、ボルトナット類が十分にしまっているか常に点検してください。
- 読めなくなったステッカーは貼り替えてください。
- 機械の性能を完全に引き出し、かつ安全にお使いいただくために、交換部品は純正品をお使いください。他社の部品を御使用になると危険な場合があり、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 8 時間	· ホイールナットのトルク締めを行う。
使用開始後最初の 200 時間	· 前側のプラネタリギアのオイルを交換する。 · 後アクスルのオイル交換を行う。
使用するごとまたは毎日	· シートベルトに摩耗や傷がないか点検する。一部でも正常に機能しないシートベルトは交換する。 · インタロックスイッチの動作を点検してください。 · エンジンオイルの量を点検する。 · 水セパレータから水や異物を流し出す。 · タイヤ空気圧を点検する。 · 後アクスルからオイル漏れしていないか目視で点検する。 · 後アクスルのギアボックスからオイル漏れしていないか目視で点検する。 · 冷却系統を点検する。 · エンジン部、オイルクーラ、ラジエターを清掃する。 · 油圧ラインとホースを点検する。 · 油圧オイルの量を点検する。
50運転時間ごと	· ベアリングとブッシュのグリスアップを行ってください。 · バッテリーの状態の点検
100運転時間ごと	· オルタネータベルトの磨耗と張りの点検
200運転時間ごと	· ホイールナットのトルク締めを行う。
250運転時間ごと	· エンジンオイルとフィルタの交換を行う。
400運転時間ごと	· エアクリーナの整備を行う。エアクリーナのインジケータが赤色になったらその時点で整備を行う。ちりやほこりの非常に多い環境で使用しているときには頻繁な整備が必要となる。 · 燃料ラインに劣化や破損、ゆるみが発生していないか点検する。 · 燃料フィルタのキャニスタは所定時期に交換してください。 · プラネタリドライブ端部にガタがないか点検する。 · プラネタリギアオイル量を点検する（オイル漏れを発見した場合はすぐに点検する）。 · 後アクスルのオイル量を点検する。（エンジンを初めて作動させる前にも点検する。） · 後アクスルのギアボックスのオイルを点検する。（初めてエンジンを始動する前にも点検する。）

整備間隔	整備手順
800運転時間ごと	・ 燃料タンクを空にして内部を清掃します。 ・ 前側のプラネタリギアのオイルを交換します。（または1年に1回のうち早く到達した方の時期）。 ・ 後アクスルのオイル交換を行う。 ・ 後輪のトーインの点検を行う。 ・ 推奨されていない油圧オイルを使用している場合、代替品のオイルを使用した場合には、油圧オイルフィルタを交換してください。 ・ 推奨されていない油圧オイルを使用している場合や代替品のオイルを使用したことがある場合には、油圧オイルフィルタを交換してください。
1000運転時間ごと	・ 推奨オイルをご使用の場合には、油圧オイルフィルタを交換してください。
2000運転時間ごと	・ 推奨オイルをご使用の場合には、油圧オイルを交換してください。
長期保管前	・ 燃料タンクを空にして内部を清掃します。 ・ タイヤ空気圧を点検する。 ・ 全部のボルトナット類を点検する。 ・ グリス注入部やピボット部全部をグリスアップする。 ・ 機体の塗装がはげていればタッチアップ修理をする。

始業点検表

このページをコピーして使ってください。

点検項目	第週						
	月	火	水	木	金	土	日
インタロックの動作を点検する。							
ブレーキの動作を確認する。							
エンジンオイルと燃料の量を点検する。							
冷却水の量を点検する。							
燃料・水セパレータの水抜きを行う。							
エアフィルタの整備時期表示を確認する。							
ラジエター、オイルクーラ、スクリーンの汚れ具合を点検する。							
エンジンから異常音がないか点検する。[1]							
運転操作時に異常音がないか点検する。							
油圧オイルの量を点検する。							
油圧ホースの磨耗損傷を点検する。							
オイル漏れなど。							
タイヤ空気圧を点検する							
計器類の動作							
リールとベッドナイフの摺り合わせ							
刈高の調整の点検。							
グリスアップ。[2]							
塗装傷のタッチアップ							
マシンを洗浄する。							

1. 始動困難、大量の煙、咳き込むような走りなどが見られる場合はグロープラグと噴射ノズルを点検する。
2. 車体を水洗いしたときは整備間隔に関係なく直ちにグリスアップする。

要注意個所の記録

点検担当者名		
内容	**日付**	**記事**
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

重要 **エンジンの整備についての詳細はエンジンマニュアルを、カッティングユニットの整備には*カッティングユニットマニュアル*を参照してください。**

注 www.Toro.com から、この機械に関する配線図と油圧回路図をダウンロードすることができます。弊社ホームページからマニュアルへのリンクをご活用ください。

潤滑

ベアリングとブッシュのグリスアップ

整備間隔: 50運転時間ごと

定期的に、全部の潤滑個所にNo.2汎用リチウム系グリスを注入します。通常の使用では 50 運転時間ごとに行いますが、機体を水洗いしたあとは整備間隔に関係なく直ちにグリスアップしてください。

グリスアップ箇所は以下の通りです

- ブレーキシャフトのピボットベアリング5ヶ所 図 41

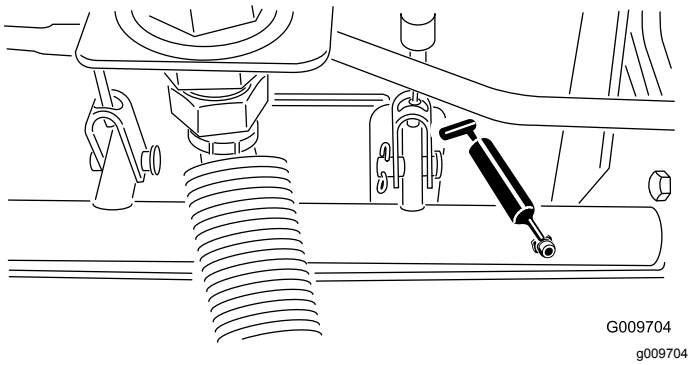


図 41

- 後アクスルピボットのブッシュ2ヶ所 図 42

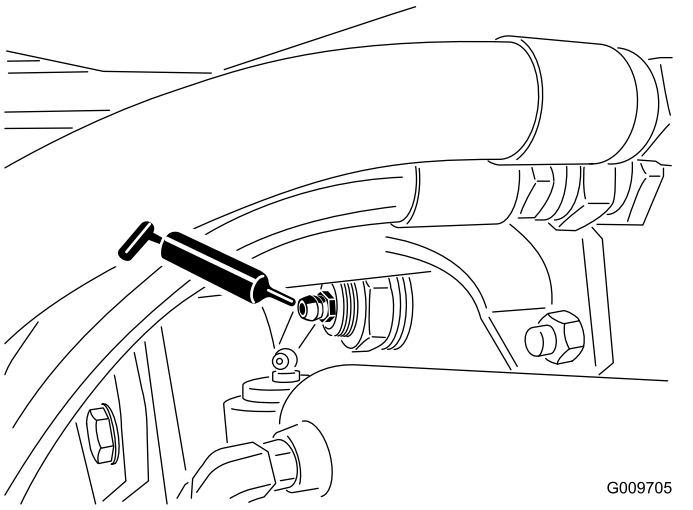


図 42

- ステアリングシリンダのボールジョイント 2ヶ所 図 43

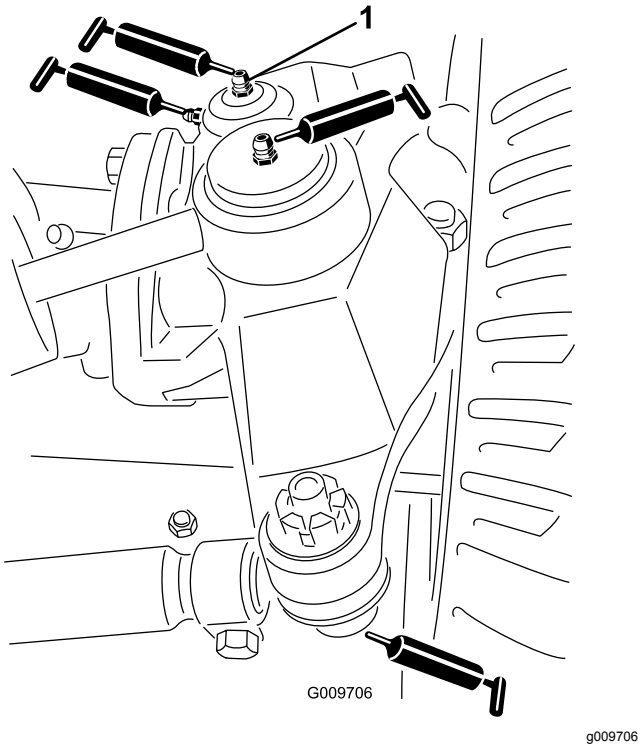


図 43

1. キングピンの上部フィッティング

- タイロッドのボールジョイント 2ヶ所 図 43
- キングピンのブッシュ2ヶ所 図 43。**但しキングピン上部は1 年に1 回のみポンプ2 回押しのみとする。**
- 昇降アームのブッシュカッティングユニット 1 台に 1 ケ所 図 44

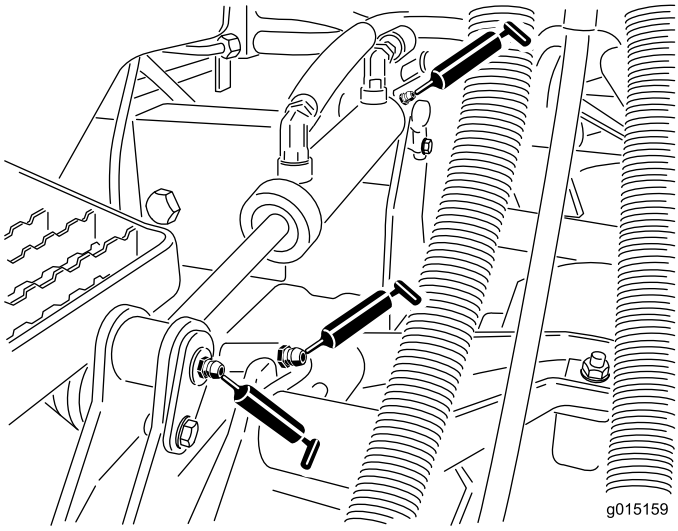


図 44

- 昇降シリンダのブッシュカッティングユニット 1 台に 2 ケ所 図 44
- 昇降アームのピボットブッシュカッティングユニット 1 台に 1 ケ所 図 45
- カッティングユニットのキャリアフレームカッティングユニット 1 台に 2 ケ所 図 45
- 昇降アームのピボットカッティングユニット 1 台に 1 ケ所 図 45

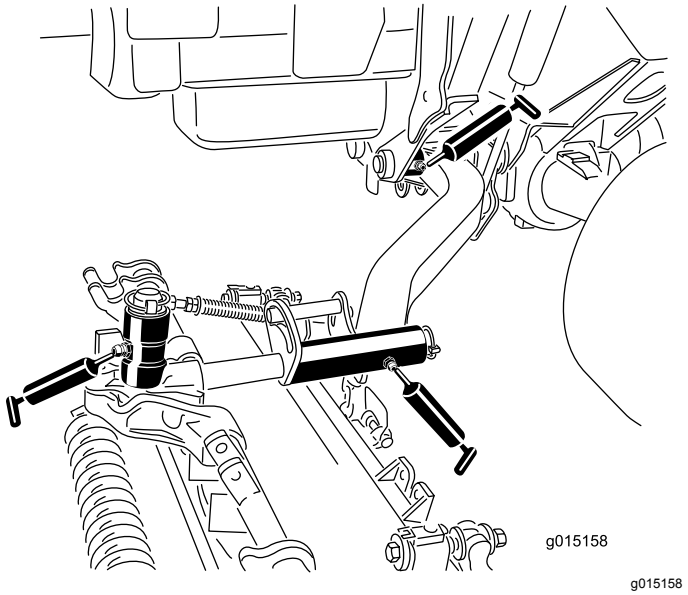


図 45

エンジンの整備

エンジンの安全事項

- エンジンオイルの点検や補充はエンジンを止めて行ってください
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を上げすぎたりしないでください。

エアクリーナの整備

整備間隔: 400運転時間ごと—エアクリーナの整備を行う。エアクリーナのインジケータが赤色になったらその時点で整備を行う。ちりやほこりの非常に多い環境で使用しているときには頻繁な整備が必要となる。

エアクリーナ本体にリーク原因となる傷がないか点検してください。破損していれば交換してください。吸気部全体について、リーク、破損、ホースのゆるみなどを点検してください。

エアクリーナのフィルタの整備は、インジケータ図 46が赤色になってから行ってください。早めに整備を行っても意味がありません。むしろフィルタを外したときにエンジン内部に異物を入れてしまう危険が大きくなります。

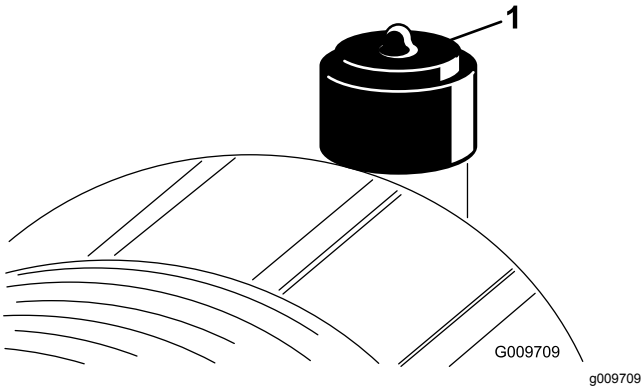


図 46

1. 整備時期インジケータ

重要 **本体とカバーが正しく、しっかりと密着しているのを確認してください。**

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. ラッチを引いて外し、カバーを左にひねってボディーからはずす図 47。

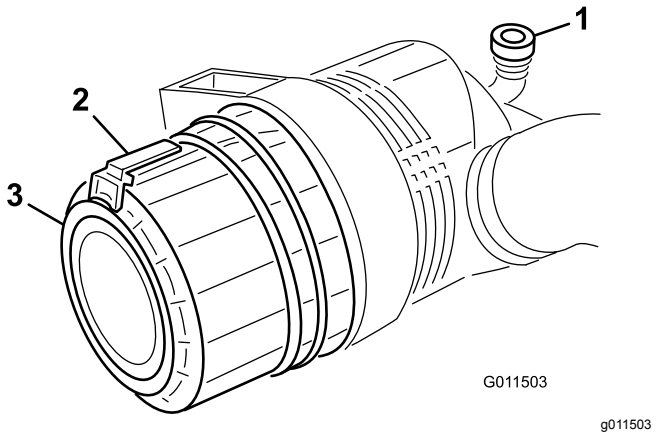


図 47

1. 整備時期インジケータ
2. ラッチ
3. カバー

3. ボディーからカバーを外す。
4. フィルタを外す前に、低圧のエア2.75 bar = 2.8 kg、異物を含まない乾燥した空気で、1次フィルタとボディーとの間に溜まっている大きなゴミを取り除く。**高圧のエアは使用しないこと。異物がフィルタを通ってエンジン部へ吹き込まれる恐れがある。**

   このエア洗浄により、1次フィルタを外した時にほこりが舞い上がってエンジン部へ入り込むのを防止することができる。
5. 1次フィルタ図 48を取り外して交換する。

   エレメントを洗って再使用しないこと。洗浄によってフィルタの濾紙を破損させる恐れがある。新しいフィルタに傷がついていないかを点検する。特にフィルタとボディーの密着部に注意する。**破損しているフィルタは使用しない。**

   フィルタをボディー内部にしっかり取り付ける。エレメントの外側のリムをしっかり押さえて確実にボディーに密着させる。**フィルタの真ん中の柔らかい部分を持たないこと。**

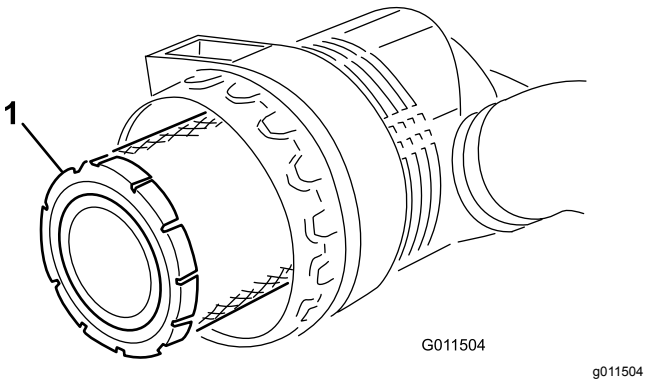


図 48

1. 次フィルタ

重要 **安全フィルタ図 49は絶対に洗わないでください。安全フィルタは、主フィルタの3回目の整備時に新しいものと交換してください。**

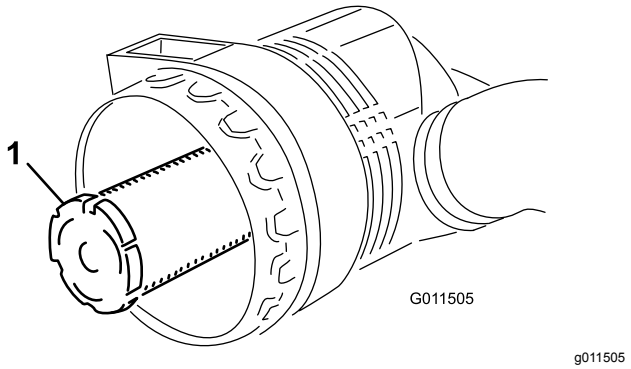


図 49

1. 安全フィルタ

6. カバーについている異物逃がしポートを清掃する。
7. カバーについているゴム製のアウトレットバルブを外し、内部を清掃して元通りに取り付ける。
8. アウトレットバルブが下向き後ろから見たとき、時計の5時と7時の間になるようにカバーを取り付ける。
9. インジケータ図 46が赤になっている場合はリセットする。

エンジンオイルの量を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

エンジンにはオイルを入れて出荷していますが、初回運転の前後に必ずエンジンオイルの量を確認してください。

油量は約 9.5 リットルフィルタ共です。

以下の条件を満たす高品質なエンジンオイルを使用してください

- API規格 CH-4、CI-4 またはそれ以上のクラス
- 推奨オイル SAE 15W-40-18 °C 以上
- 他に使用可能なオイルSAE 10W-30 または 5W-30 全温度帯

注 トロのプレミアムエンジンオイル10W-30 または 5W-30を代理店にてお求めいただくことができます。

注 エンジンオイルを点検する最もよいタイミングは、その日の仕事を始める直前、エンジンがまだ冷えているうちです。既にエンジンを始動してしまった場合には、一旦エンジンを停止し、オイルが戻ってくるまで約 10 分間程度待ってください。油量がディップスティックのADDマークにある場合は、FULLマークまで補給してください。**入れすぎないように注意すること。**FULL 位置と ADD 位置の間であればオイルの補給は不要です。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. フードのラッチを外し、フードを持ち上げる図 50。

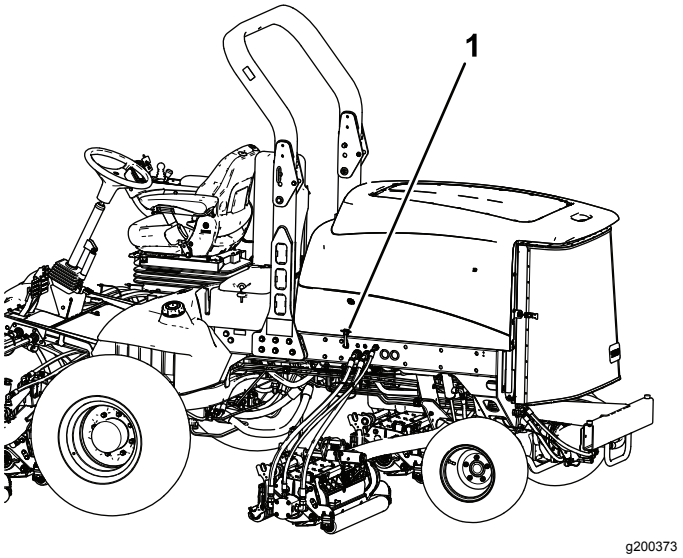


図 50

1. フードのラッチ

3. ディップスティックを抜き取り、付いているオイルをウェスで拭き、もう一度一杯に差し込んで抜きとる。

   オイル量が安全レンジ内にあればよい図 51。

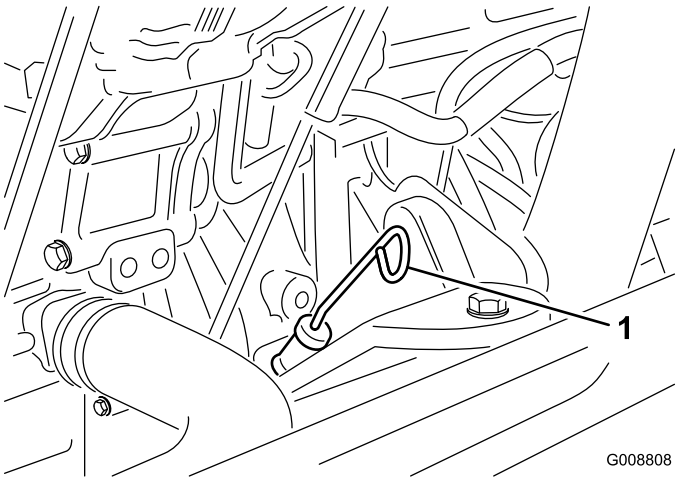


図 51

1. ディップスティック

4. 不足している場合安全範囲よりも下は、補給管についているキャップ図 52を取り、Full 位置までオイルを補給する。

   重要 **入れすぎないように注意してください。**

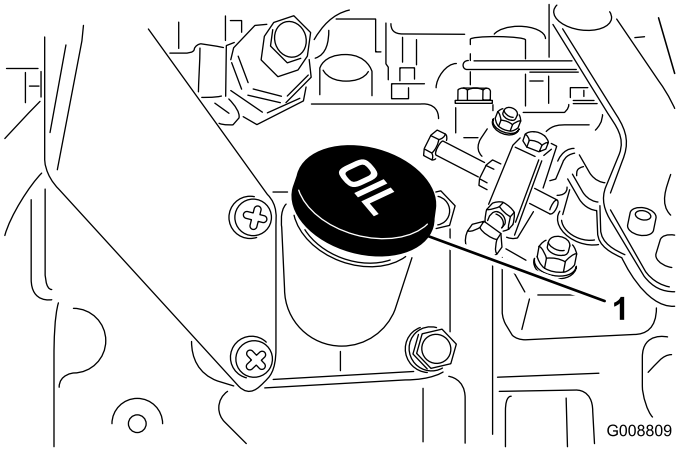


図 52

1. 補給口キャップ

注 種類の異なるオイルを使うときには、古いオイルを全部抜き取ってから新しいオイルを入れること。

5. オイルキャップとディップスティックを取り付ける。
6. フードを降ろし、ラッチを掛ける。

エンジンオイルとフィルタの整備

整備間隔: 250運転時間ごと

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. ドレンプラグ 図 53 を外してオイルを容器に受ける。

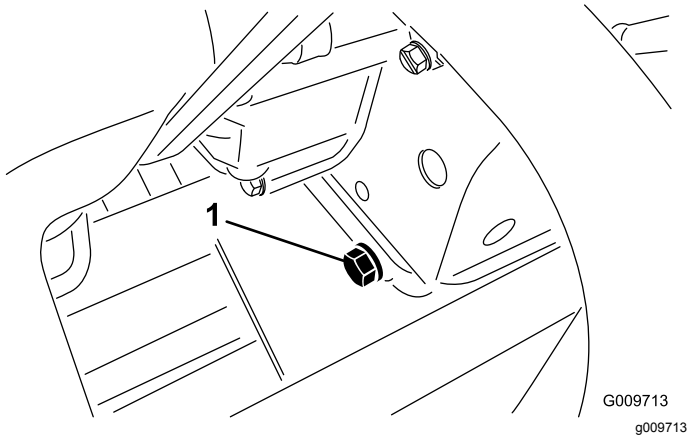


図 53

1. ドレンプラグ

3. オイルが完全に抜けたらドレンプラグを取り付ける。
4. オイルフィルタ図 54を外す。

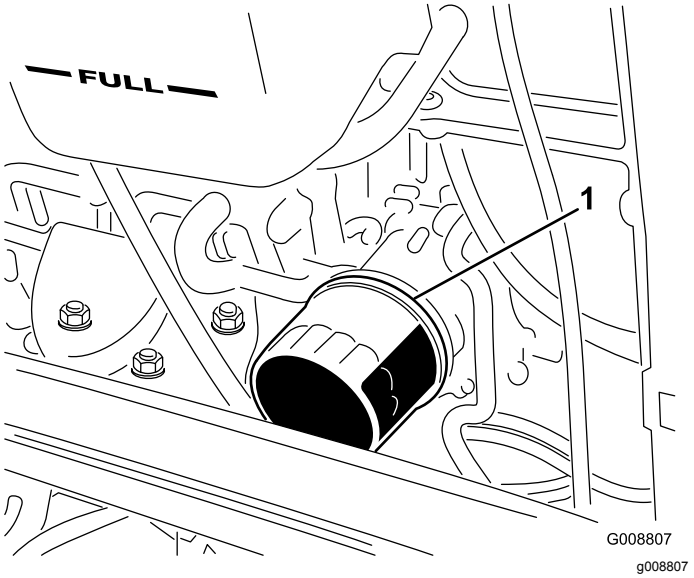


図 54

1. オイルフィルタ

5. 新しいフィルタのシールに薄くエンジンオイルを塗って取り付ける。

   注 フィルタを締めつけすぎないように注意してください。
6. クランクケースにオイルを入れる エンジンオイルの量を点検する (ページ 41)を参照。

スロットルの調整

スロットルケーブル図 55がコントロールアームのスロットの端部に当たるのと同じタイミングでエンジンのガバナレバーが高速固定ボルトに当たるように、スロットルケーブルを調整します。

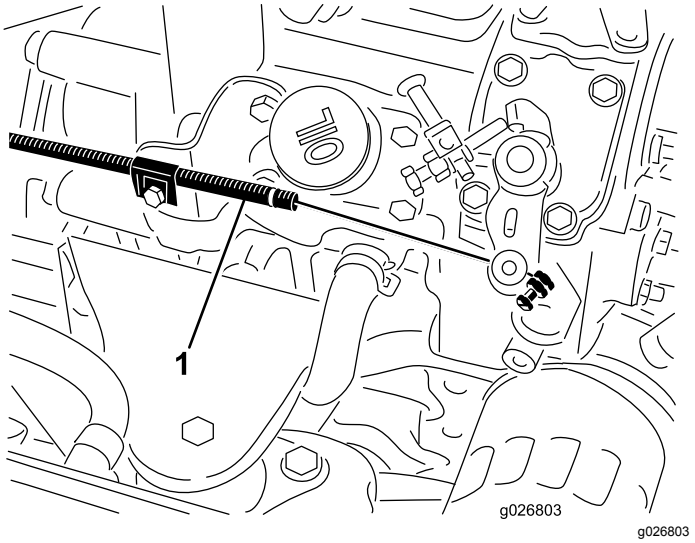


図 55

1. スロットルケーブル

燃料系統の整備

⚠ 危険

燃料や燃料蒸気は条件次第で簡単に引火爆発する。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。

- **燃料補給は必ず屋外で、また、エンジンが停止して冷えた状態で行う。こぼれた燃料はふき取る。**
- **燃料タンク一杯に入れないこと。給油は燃料タンクの首の根元から25 mm 程度下までとする。これは、温度が上昇して燃料が膨張したときにあふれないように空間を確保するためである。**
- **燃料取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。**
- **安全で汚れのない認可された容器で保存し、容器には必ずキャップをはめること。**

燃料タンクの内部清掃

整備間隔: 800運転時間ごと

長期保管前

平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。

燃料系統が汚染された時や、マシンを長期にわたって格納する場合はタンクを空にして内部を清掃してください。タンクの清掃にはきれいな燃料を使用してください。

燃料ラインとその接続の点検

整備間隔: 400運転時間ごと/1年ごと いずれか早く到達した方

平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。

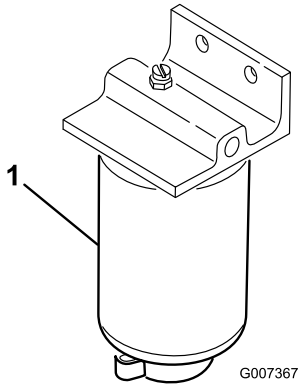
劣化・破損状況やゆるみが発生していないかを調べてください。

ウォーターセパレータの整備

整備間隔: 使用するごとまたは毎日—水セパレータから水や異物を流し出す。

400運転時間ごと—燃料フィルタのキャニスタは所定時期に交換してください。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 燃料フィルタの下に汚れのない容器をおく。
3. キャニスタ下部のドレンプラグをゆるめて水や異物を流し出す。



g007367

図 56

1. フィルタキャニスタ

4. フィルタ容器の周辺をウェスできれいにぬぐう。
5. フィルタ容器を外して取り付け部をきれいに拭く。
6. ガスケットに薄くオイルを塗る。
7. ガスケットが取り付け部に当るまで手でねじ込み、そこからさらに1/2回転締め付ける。
8. キャニスタ下部のドレンプラグを締める。

燃料ろ過スクリーンの清掃

平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。

燃料タンク内部にある燃料供給チューブには、燃料系統に異物が入るのを防止するスクリーンがついています。必要に応じてこのチューブを取り外して清掃してください。

電気系統の整備

電気系統に関する安全確保

- マシンの整備や修理を行う前に、バッテリーの接続を外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラスを先に接続し、次にマイナスを接続してください。
- バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続や切り離しを行うときは、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、安全な服装を心がけ、工具は確実に絶縁されたものを使ってください。

バッテリーの充電と接続

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 運転席のコンソールパネルのラッチを外して持ち上げる図 57。

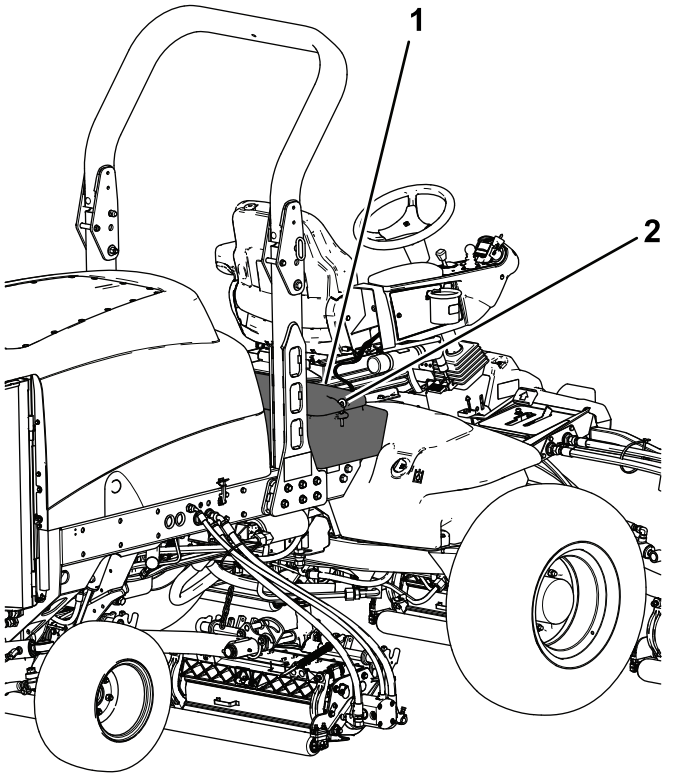


図 57

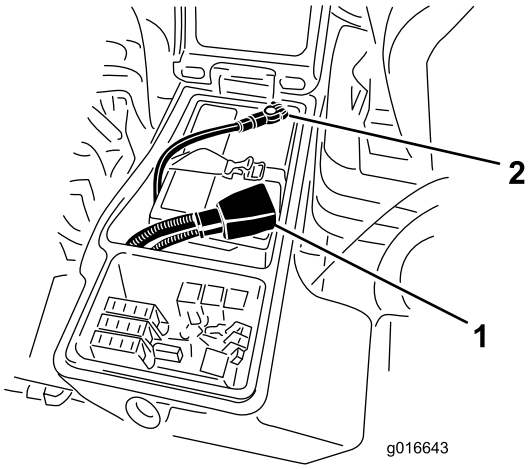
1. 運転席のコンソールパネル　2. ラッチ

⚠ 危険

電解液には硫酸が含まれており、触れると火傷を起こし、飲んだ場合には死亡する可能性がある。

- **電解液を飲まないこと。また、電解液を皮膚や目や衣服に付けないよう十分注意すること。安全ゴーグルとゴム手袋で目と手を保護すること。**
- **皮膚に付いた場合にすぐに洗浄できるよう、必ず十分な量の真水を用意しておくこと。**

3. 充電器に接続し、充電電流を 3-4 A にセットする。
4. 3-4 Aで4-8時間充電する。
5. 充電が終わったらチャージャをコンセントから抜き、バッテリー端子からはずす。
6. 赤いケーブルをバッテリーの 端子に、 黒いケーブル はバッテリーの 端子に固定する図 58



g016643

図 58

1. プラスケーブル　2. マイナスケーブル

7. キャップスクリュとナットでケーブルを固定する。

   プラス端子が電極に十分にはまり込んでいること、ケーブルの配線に無理がないことを確認する。ケーブルとバッテリーカバーを接触させないこと。
8. ショート防止のために 端子にゴムキャップをかぶせる。
9. 腐食防止のために両方の端子部にワセリンGrafo 112X: P/N 505-47またはグリスを薄く塗る。
10. プラス端子にゴムカバーを取り付ける。
11. コンソールパネルを閉じ、ラッチを掛ける。

バッテリーの整備

整備間隔: 50運転時間ごと

重要 **電気系統を保護するため、本機に溶接作業を行う時には、バッテリーのマイナスケーブルの接続を外してください。**

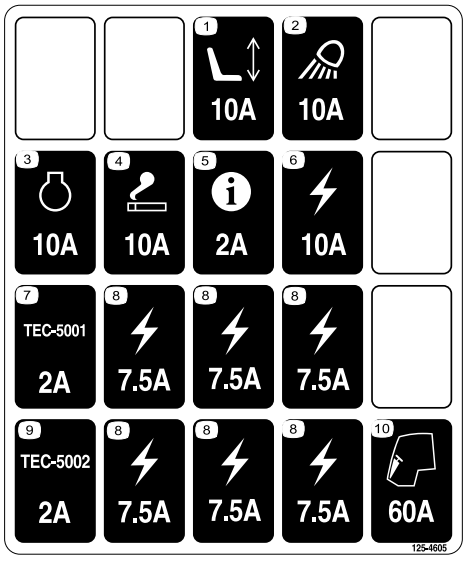
注 50 運転時間ごとまたは1週間に1度、バッテリーを点検してください。端子や周囲が汚れていると自然放電しますので、バッテリーが汚れないようにしてください。

以下の要領でバッテリーを清掃してください

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 機体からバッテリーを取り外す。
3. 重曹と水でケース全体を洗う。
4. 真水でケースを仕上げ洗いする。
5. 腐食防止のために両方の端子部にワセリンGrafo 112X: P/N 505-47を薄く塗る。

ヒューズの点検

ヒューズはオペレータコントロールパネルの下にあります。

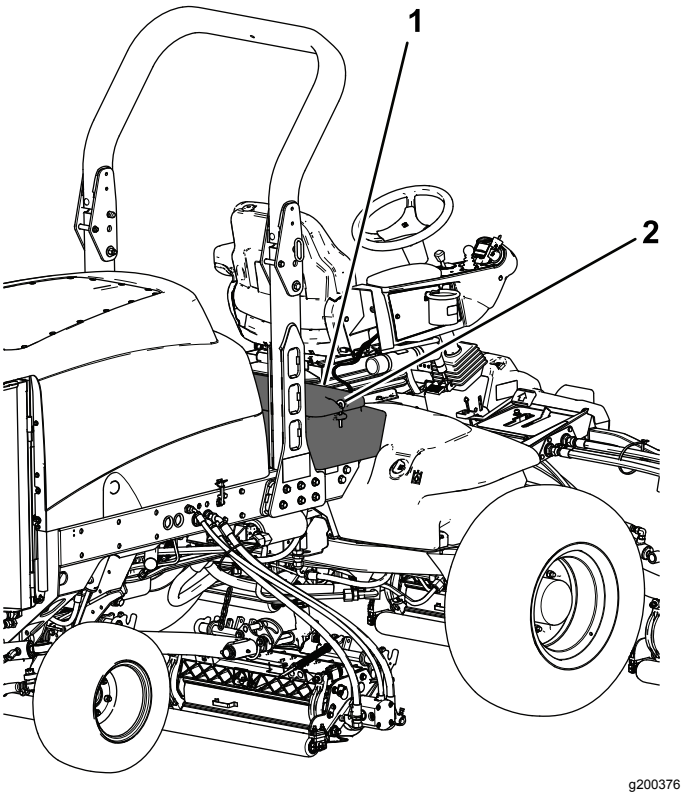


decal125-4605

図 59

平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。

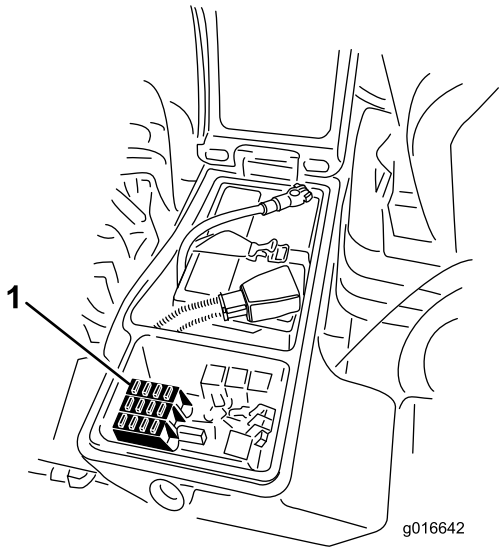
ラッチを外し、オペレータコントロールパネル図 60を開いてヒューズを露出させる図 61。



g200376

図 60

1. 運転席のコンソールパネル　2. ラッチ



g016642

g016642

図 61

1. ヒューズ

走行系統の整備

タイヤ空気圧を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

タイヤは空気圧を高く設定して出荷しています。運転前に正しいレベルに下げてください。タイヤの適正空気圧は、0.83-1.03 bar 12-15 psiです。使用開始前に毎日点検してください。

重要 **マシンの性能を適切に発揮させ、また質の高い刈り込みを実現するために、すべてのタイヤの空気圧を推奨値に維持してください。タイヤ空気圧は規定値以下に下げてはならない。**

ホイールナットのトルクを点検する

整備間隔: 使用開始後最初の 8 時間

200運転時間ごと

平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。

⚠ 警告

この整備を怠ると車輪の脱落や破損から人身事故につながる恐れがある。

運転開始から1-4時間後に1回と8時間後にもう1回、前輪と後輪のホイールナットのトルク締めを行うこと トルク値は 115-136 N·m12-14 kg.m = 85-100 ft-lb。その後は 200 運転時間 ごとにトルク締めを行う。

注 前輪のナットは 1/2-20 UNFです。後輪のナットはM12 x 1.6-6H メートル系ナット

プラネタリドライブ端部のガタの点検

整備間隔: 400運転時間ごと

プラネタリドライブとホイールとの間にガタがあってはなりません ホイールを軸方向に押し引きしたときにホイールが動く場合はガタがあります。

1. 車両を平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを降下させ、エンジンを停止し、キーを抜き取る。
2. 後ホイールに輪止めを掛け、機体前部を床から浮かせ、前アクスルフレーム部をジャッキスタンドで支える。

⚠ 危険

ジャッキに載っている車体は不安定であり、万一外れると下にいる人間に怪我を負わせる危険が大きい。

- **ジャッキアップした状態では車両を始動しないこと。**
- **車両から降りる時は必ず スイッチからキーを抜いておく。**
- **ジャッキアップしている時にはヤイヤに輪止めを掛けること。**
- **機体をジャッキスタンドで支える。**

3. 左右の前駆動輪のうちの一つを持って抜き差し方向に押し引きし、車輪が動かないことを確認する。

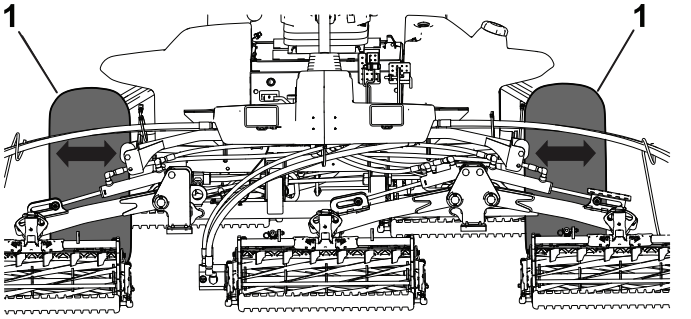


図 62

1. 前駆動輪

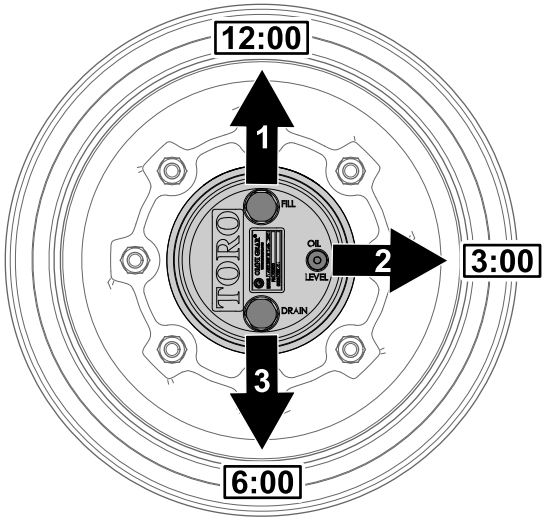
4. もう1個のホイールにもステップ3の点検を行う。
5. どちらか一方でもホイールが動く場合は、代理店に連絡してリビルドしてもらう

プラネタリギアオイルの点検

整備間隔: 400運転時間ごと オイル漏れを発見した場合はすぐに点検する。

ギアオイルの種類高品質の SAE 85W-140 ギアオイル

1. 水平な床面で、補給プラグが時計の 12 時の位置、点検プラグが 3 時、ドレンプラグが 6 時の位置を指すように駐車する図 63。



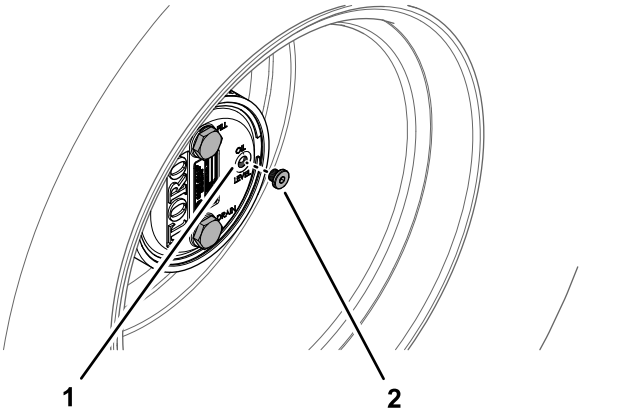
g225612

図 63

1. 補給プラグ12 時の位置
2. 点検プラグ3 時の位置
3. ドレンプラグ6 時の位置

2. 3 時の位置にある点検プラグを外す図 63。

   オイルが点検穴の下ふちまであれば適正である。



g225606

図 64

1. 点検プラグの穴
2. 点検プラグ

3. オイル量が不足している場合には、12 時の位置にある補給プラグを外し、所定レベルである 3 時の位置の高さになるまでオイルを補給する。
4. 各プラグについている O リングに磨耗や破損がないか点検する。

   注 必要に応じて O リングを交換してください。
5. 各プラグを取り付ける。
6. マシンの反対側のプラネタリギアアセンブリにも、ステップ 1-5 の作業を行う。

プラネタリギアオイルの交換

整備間隔: 使用開始後最初の 200 時間

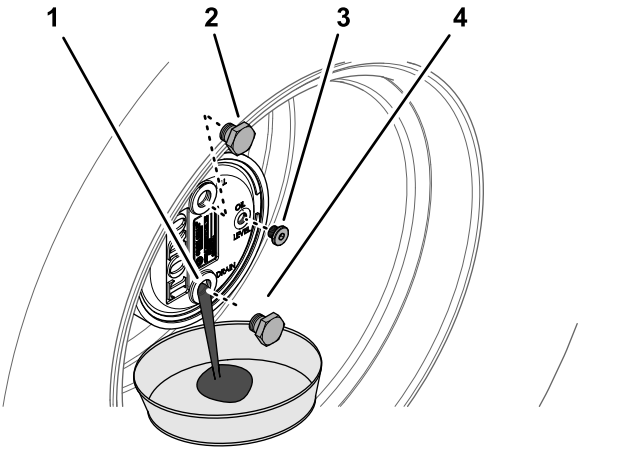
800運転時間ごと または1年に1回のうち早く到達した方の時期。

ギアオイルの種類高品質の SAE 85W-140 ギアオイル

プラネタリギアとブレーキハウジングのオイルの量 0.65 リットル

プラネタリギアドライブからのオイル抜き作業

1. 水平な床面で、補給プラグが時計の 12 時の位置、点検プラグが 3 時、ドレンプラグが 6 時の位置を指すように駐車する図 63 プラネタリギアオイルの点検 (ページ 46)を参照。
2. 補給プラグがが時計の 12 時を指し、点検プラグ が 3 時の位置を指すようにマシンを駐車する図 65。



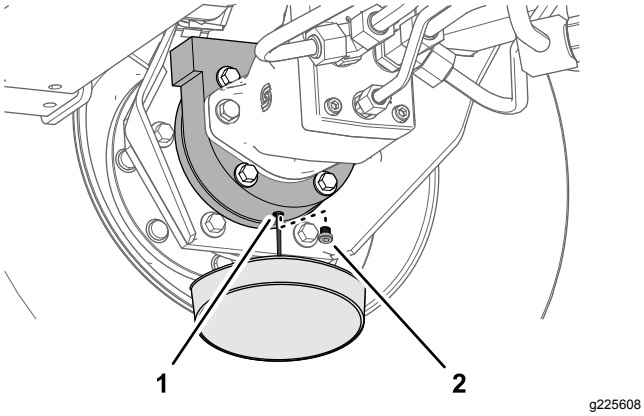
g225609

図 65

1. ドレンプラグの穴
2. 補給プラグ
3. 点検プラグ
4. ドレンプラグ

3. プラネタリハブの下にオイル回収容器を置き、6 時の位置にあるドレンプラグを外してオイルを抜く図 65。
4. 補給用、点検用、ドレン用の各プラグについている O リングに磨耗や破損がないか点検する。

   注 必要に応じて O リングを交換してください。
5. プラネタリハウジングのドレン穴にプラグを取り付ける図 65。
6. ブレーキハウジングの下に容器を置き、プラグを外してオイルを抜く図 66。



g225608

図 66

1. ドレン穴ブレーキハウジング　2. ドレンプラグ

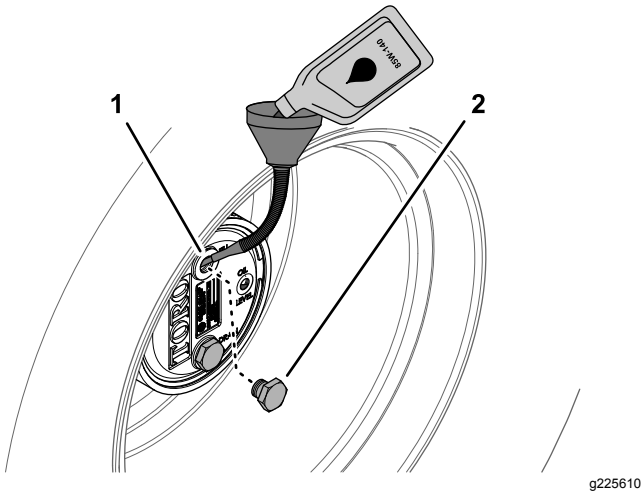
7. プラグについている O リングに磨耗や破損がないか点検し、問題がなければ元通りに取り付ける。

   注 必要に応じて O リングを交換してください。

プラネタリギアドライブへのオイルの補給

1. 補給プラグの穴から、高品質の SAE 85W-140 wt. ギア潤滑油 650 ml を、ゆっくりと入れる。

   重要 **650 ml が入り終わる前に一杯になってしまった場合は、1時間ほど待つか、一度プラグをはめてマシンを 3 m ほど移動させると、ブレーキシステムにオイルがまわって残り量を補給することができるようになります。そのようにして全量を入れてください。**

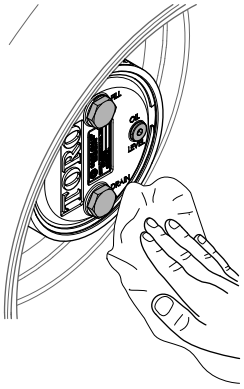


g225610

図 67

1. 補給プラグの穴プラネタリハウジング　2. 補給プラグ

2. 補給プラグと点検プラグを取り付ける。
3. プラネタリハウジングとブレーキハウジングをきれいに拭く図 68 。



g225607

図 68

4. マシンの反対側ののプラネタリアセンブリとブレーキアセンブリにも、ステップ 1-7 プラネタリギアドライブからのオイル抜き作業 (ページ 47)とステップ1-3の作業を行う。

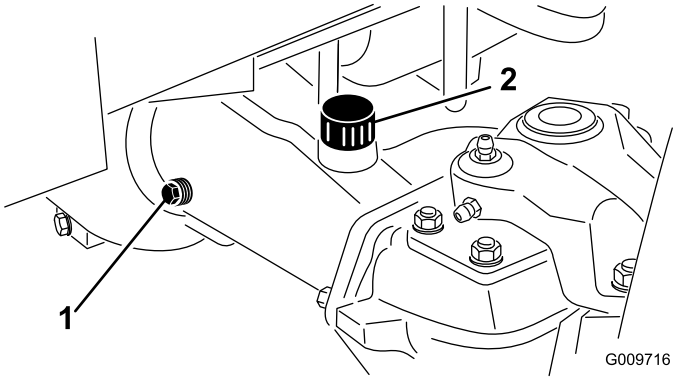
後アクスルのオイル量を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

400運転時間ごと エンジンを初めて作動させる前にも点検する。

後アクスルには SAE 85W-140 ギアオイルを入れて出荷しています。容量は2.4 リットルです。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. アクスルの一方の端部から点検用プラグ図 69を抜き、穴の高さまでオイルがあることを確認する。量が不足している場合は、給油プラグ図 69をはずして補給する。



G009716

g009716

図 69

1. 点検プラグ　2. 補給プラグ

後アクスルのオイル交換

整備間隔: 使用開始後最初の 200 時間

800運転時間ごと

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. ドレンプラグ図 70左右端に個と中央に個、全部で3個あるの周辺をきれいに拭く。

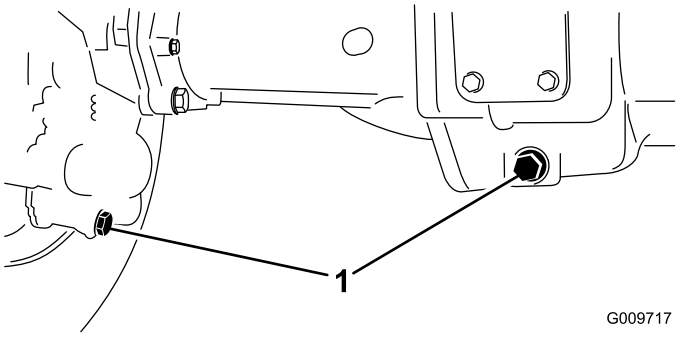


図 70

1. ドレンプラグ

3. オイルが抜けやすいように点検用プラグを抜く。
4. 各ドレンプラグからオイルを抜き、容器で回収する。
5. プラグを取り付ける。
6. 点検用プラグを外し、そこから 85W-140 ギアオイルをおよそ 2.37 リットル入れる。穴の下側の縁までオイルが入ればよい。
7. 点検プラグを取り付ける。

後アクスルのギアボックスのオイルを点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

400運転時間ごと 初めてエンジンを始動する前にも点検する。

ギアボックスには SAE 85W-140 ギアオイルを入れて出荷しています。容量は0.5 リットルです。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. ギアボックスの左側から点検・補給用プラグ図 71を抜き、穴の高さまで潤滑油があることを確認する。油量が足りなければ穴の下部まで補給する。

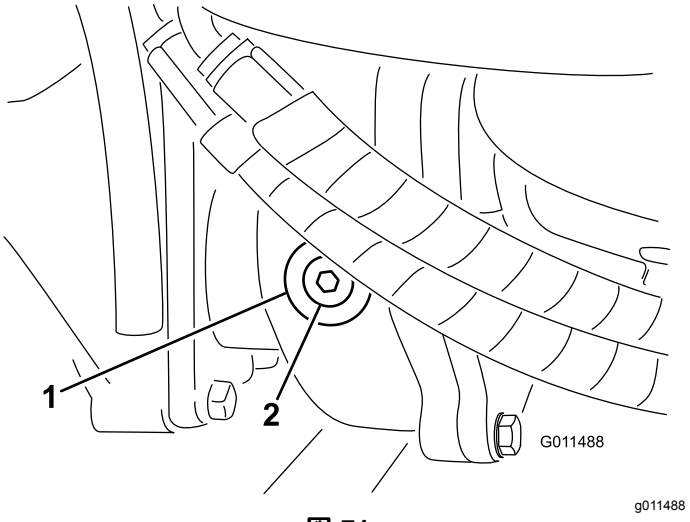


図 71

1. ギアボックス
2. 点検・補給プラグ

走行ドライブのニュートラル調整

走行ペダルが踏みこまれていないときはマシンが停止していなければなりません。動きだすようでしたら調整が必要です。

1. 平らな場所に駐車し、エンジンを停止し、速度コントロールをローレンジにセットし、カッティングユニットを床面に降下させる。
2. 右側のブレーキペダルのみを踏み込んで駐車ブレーキを掛ける。
3. 機体の左側前部をジャッキアップして前輪を床から浮かす。落下事故防止のために、ジャッキスタンドや支持ブロックなどを使って機体をサポートする。
4. エンジンを始動し、アイドル速度で回転させる。
5. ポンプのロッドの端部についているジャムナットを調整する前進回転をなくすにはポンプのコントロールチューブを前へ動かし、後退回転をなくしたい場合には、後ろへ動かす図 72。

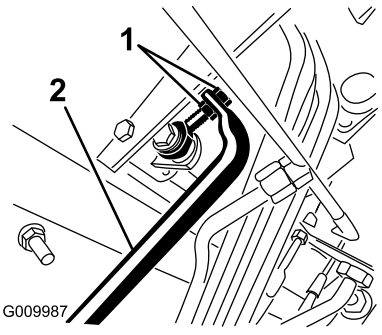


図 72

1. ポンプのロッドのジャムナット
2. ポンプコントロールチューブ

6. 車輪が回転しないようになったら、ジャムナットを締めて調整を固定する。
7. エンジンを止め、右側のブレーキを解放する。
8. ジャッキスタンドをはずし、機体を床に下ろす。
9. 試験運転で調整を確認する。

後輪のトーインの調整

整備間隔: 800運転時間ごと/1年ごと いずれか早く到達した方

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 後輪の前と後ろで、左右のタイヤの中央線間距離を測るアクスルの高さ位置で計測。

   注 前での測定値が、後ろでの測定値より 3 mm 小さければ合格とする図 73。

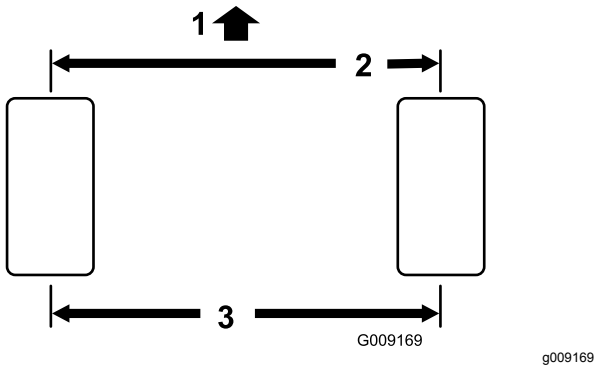


図 73

1. トラクションユニットの前部
2. タイヤの後ろでの測定よりも 3 mm 小さい
3. 中心線から中心線までの距離

3. 調整は、両側のタイロッドのボールジョイントからコッターピンとナットを外して行う図 74。

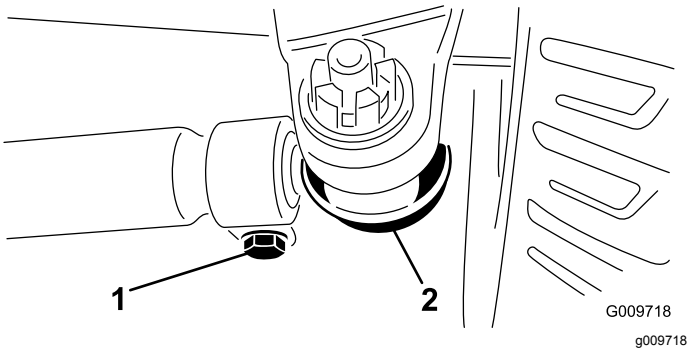


図 74

1. タイロッドクランプ
2. タイロッドのボールジョイント

4. アクスルケースサポートからタイロッドのボールジョイントを外す。
5. タイロッド両側のクランプをゆるめる図 74。
6. 外したボールジョイントを内側または外側に1回転させる。
7. ロッドの連結されていない側のクランプを締める。
8. タイロッドアセンブリ全体を同じ方向内まわりまたは外まわりに1回転させる。
9. ロッドの連結されている側のクランプを締める。
10. アクスルケースサポートのボールジョイント を取り付け、指締めする。
11. トーインを測定する。
12. 必要に応じてこの操作を繰り返す。
13. 調整ができたらナットを締め、新しいコッターピンで固定する。

冷却系統の整備

冷却系統に関する安全確保

- 冷却液を飲み込むと中毒を起こす冷却液は子供やペットが触れない場所に保管すること。
- 高温高圧の冷却液を浴びたり、高温のラジエター部分に触れたりすると大火傷をする恐れがある。
  - エンジン停止後、少なくとも15分間程度待って、エンジンが冷えてからキャップを開けること。
  - キャップを開けるときはウェスなどを使い、高温の水蒸気を逃がしながらゆっくりと開けること。

冷却系統を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

毎日作業前に、冷却液の量を点検してください。容量はおよそ 12.3 リットルです。

1. ラジエターキャップを注意深く外す。

⚠ 注意

エンジン停止直後にラジエターのキャップを開けると、高温高圧の冷却液が吹き出してやけどを負う恐れがある。

- **エンジン回転中はラジエターのふたを開けないこと。**
- **キャップを開けるときはウェスなどを使い、高温の水蒸気を逃がしながらゆっくりと開けること。**

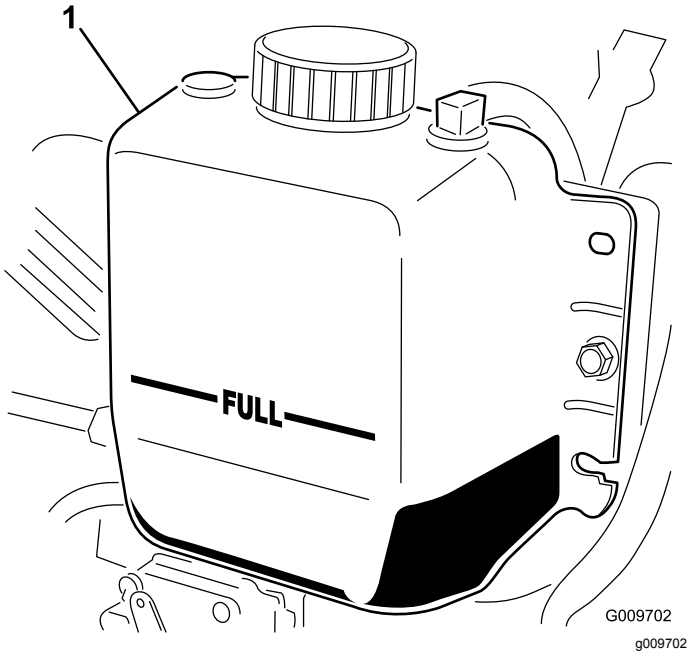


図 75

1. 補助タンク

2. ラジエター内部の液量を点検する。

   注 ラジエターは補給口の首の部分まで、補助タンクはFULLマークまであれば適正です図 75。

3. 冷却液が不足している場合は、水とエチレングリコール不凍液の 50/50 混合液を補給します

   注 水だけの使用や、アルコール系、メタノール系の冷却液の使用は避けてください。

4. 各タンクのキャップを閉める

エンジンの冷却システムの整備

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

エンジン部、オイルクーラ、ラジエターは毎日清掃してください。汚れが激しければより頻繁な清掃が必要です。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 後部スクリーンのラッチを外してスクリーンを開く図 76。

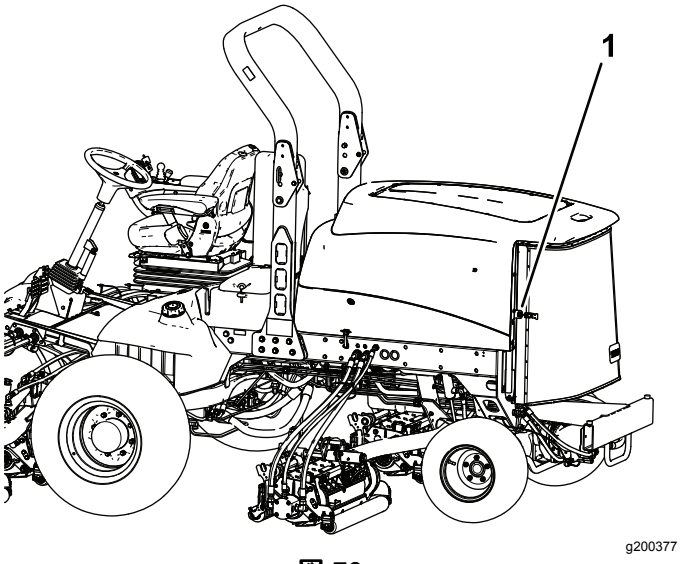


図 76

1. 後スクリーンのラッチ

3. スクリーンを丁寧に清掃する。

   注 蝶番のピンを抜くとスクリーンを外すことができます。

4. オイルクーラとラジエターの両方の裏表図 77を圧縮空気で丁寧に清掃する。前側から清掃を始め、車体後方に向けてごみを吹き飛ばす。その後、今度は後ろ側から前側に向かって吹きつけて清掃する。この作業を数回繰り返してごみやほこりを十分に落とす。

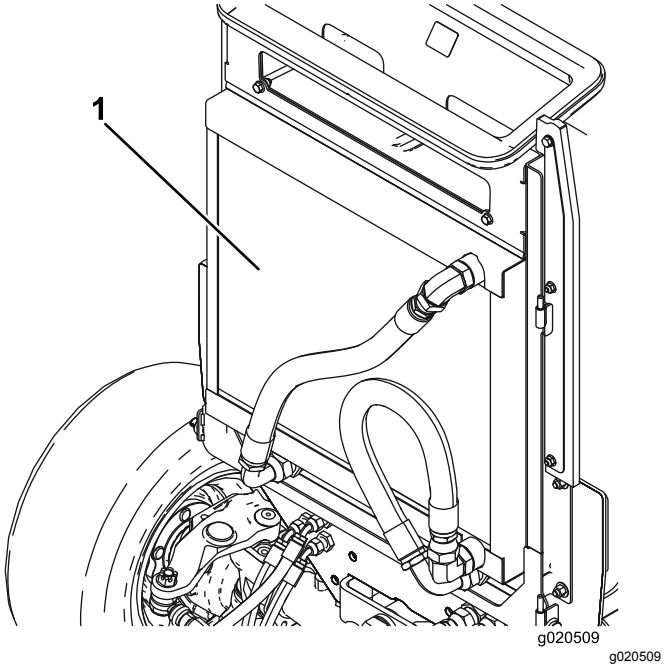


図 77

1. オイルクーラ/ラジエター

重要 **オイルクーラ/ラジエター部を水で清掃すると、さびが発生したり、各部の破損が早く進む恐れがあり、ほこりが固くこびりつくので避けてください。**

5. 後部スクリーンを閉じてラッチを掛ける。

ブレーキの整備

ブレーキの調整

ブレーキペダルの遊びが 13 mm以上となったり、ブレーキの効きが悪いと感じられるようになったら、調整を行ってください。遊びとは、ブレーキペダルを踏み込んでから抵抗を感じるまでのペダルの行きしろを言います。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 左右のペダルが独立に動けるように、ブレーキペダルのロックピンを外す。
3. 行きしろを小さくするにはブレーキを締める
   A. ブレーキケーブル図 78の端にある前ナットをゆるめる。

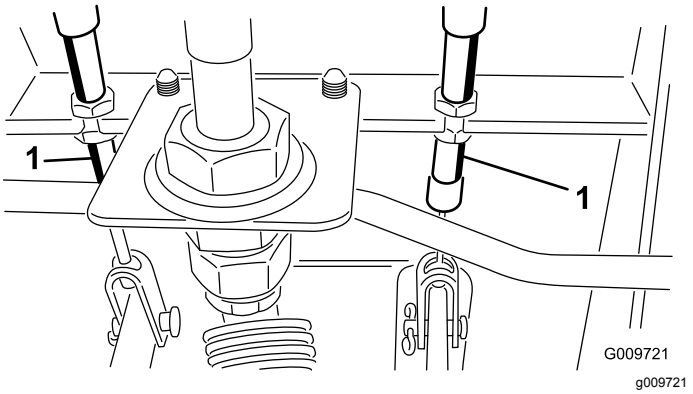


図 78

1. ブレーキケーブル

   B. 後ナットを締めてケーブルを後方に移動させてブレーキペダルの遊びが 0-13 mm になるようにする。

   注 ペダルを踏んでいない時にブレーキにテンションがかかっていないことを確認してください。

   C. 調整ができたら前ナットを締める。

ベルトの整備

オルタネータベルトの整備

整備間隔: 100運転時間ごと

1. プーリとプーリとの中間部を 45 N約 4.5 kg の力で押した時に、10 mm 程度のたわみがあれば適正です。
2. たわみが10 mmでない場合には、オルタネータ取り付けボルトをゆるめる図 79。

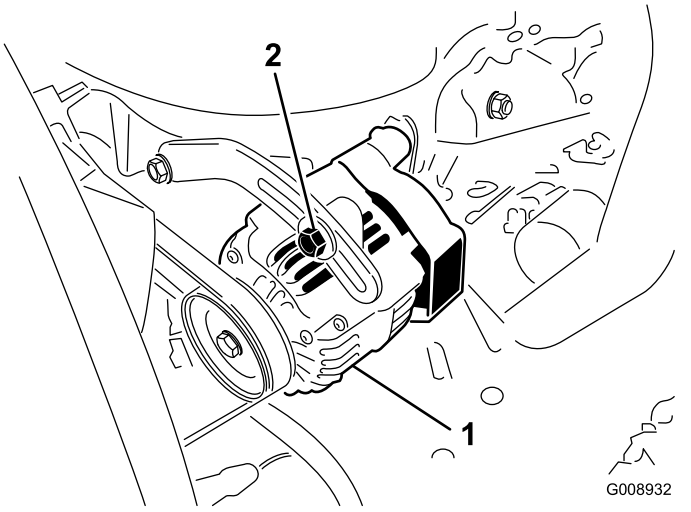


図 79

1. オルタネータ
2. 取り付けボルト

3. オルタネータベルトの張りを調整し、ボルトを締め付ける。
4. ベルトのたわみが適切に調整されたことを確認する。

油圧系統の整備

油圧系統に関する安全確保

- 万一、油圧オイルが体内に入ったら、直ちに専門医の治療を受けてください。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受ける必要がある。
- 油圧装置を作動させる前に、全部のラインコネクタが適切に接続されていること、およびラインやホースの状態が良好であることを確認すること。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけない。
- リークの点検には新聞紙やボール紙を使う。
- 油圧関係の整備を行う時は、内部の圧力を確実に解放する。

油圧ラインとホースの点検

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

油圧ライン･油圧ホースにオイル漏れ、ねじれ、支持部のゆるみ、磨耗、フィッティングのゆるみ、風雨や薬品による劣化などがないか毎日点検してください。異常を発見したら必ず運転を行う前に修理してください。

油圧オイルの量を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

油圧オイル溜めに高品質の油圧オイルを満たして出荷しています。初めての運転の前に必ず油量を確認し、その後は毎日点検してください。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 油圧オイルタンクの注油口周辺をきれいに拭き、キ ャップ図 80を外す。

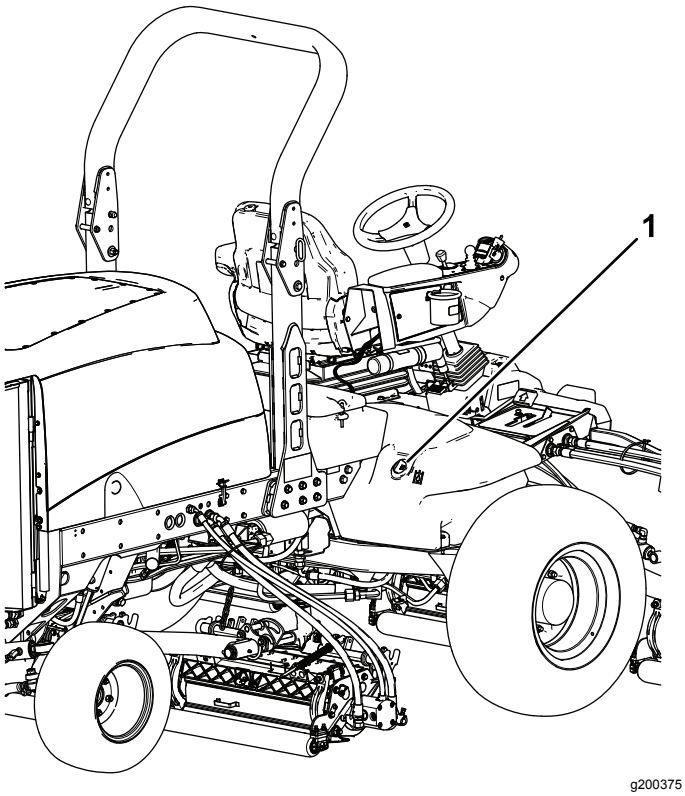


図 80

1. 油圧オイルタンクのキャップ

3. 給油口からキャップを取る。
4. 補給口の首からディップスティックを抜き、ウェスできれいに拭う。
5. もう一度首に差し込んで引き抜き、オイルの量を点検する。

   2本のマークの間にあれば適正である。
6. 油量が少なければ上マークまで補給する。
7. ディップスティックとキャップを取り付ける。

油圧作動液の仕様

油圧オイル溜めに高品質の油圧オイルを満たして出荷しています。初めての運転の前に必ず油量を確認し、その後は毎日点検してください 油圧オイルの量を点検する (ページ 53)を参照。

交換用の推奨油圧オイルToro PX Extended Life Hydraulic Fluid19 リットル缶または208 リットル缶。

注 推奨オイルを使用するとオイルやフィルタ交換の回数を減らすことができます。

使用可能な他のオイルToro PX Extended Life Hydraulic Fluidが入手できない場合は、以下に挙げる特性条件および産業規格を満たす石油系の油圧オイルを使用することができます。合成オイルは使用しないでください。オイルの専門業者と相談の上、適切なオイルを選択してください

注 不適切なオイルの使用による損害については弊社は責任を持ちかねますので、品質の確かな製品をお使い下さる様お願いいたします。

高粘度インデックス低流動点アンチウェア油圧作動液, ISO VG 46

物性	
粘度, ASTM D445	cSt @ 40°C 44-48
粘性インデックス ASTM D2270	140 以上
流動点 ASTM D97	-37°C–45°C
産業規格	Eaton Vickers 694 (I-286-S, M-2950-S/35VQ25 or M-2952-S)

注 多くの油圧オイルはほとんど無色透明であり、そのためオイル洩れの発見が遅れがちです。油圧オイル用の着色剤20 ml 瓶をお使いいただくと便利です。1瓶で15-22 リットルのオイルに使用できます。パーツ番号はP/N 44-2500 ご注文は Toro 代理店へ。

***重要*トロ・プレミアム合成生分解油圧作動液は、トロ社がこの製品への使用を認めた唯一の合成生分解オイルです。このオイルは、トロ社の油圧装置で使用しているエラストマーに悪影響を与えず、また広範囲な温度帯での使用が可能です。このオイルは通常の鉱物性オイルと互換性がありますが、十分な生分解性を確保し、オイルそのものの性能を十分に発揮させるためには、通常オイルと混合せず、完全に入れ替えて使用することが望まれます。この生分解オイルは、モービル代理店にて 19 リットル缶または 208 リットル缶でお求めになれます。**

油圧オイルの容量

28.4 リットル 油圧作動液の仕様 (ページ 54)を参照。

油圧オイルの交換

整備間隔: 2000運転時間ごと—**推奨オイルをご使用の場合**には、油圧オイルを交換してください。

800運転時間ごと—**推奨されていない油圧オイルを使用している場合、代替品のオイルを使用した場合**には、油圧オイルフィルタを交換してください。

オイルが汚染されてしまった場合は油圧系統全体を洗浄する必要がありますので、Toro の正規代理店にご連絡ください。汚染されたオイルは乳液状になったり黒ずんだ色になったりします。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. フードを上げる。
3. 油圧オイルタンクの底部からケースリターンラインを外し、流れ出すオイルを大型の容器に受ける。

4. オイルが全部流れ出たらラインを元通りに接続する。
5. タンクに油圧オイルを入れる 油圧作動液の仕様 (ページ 54)と 油圧オイルの容量 (ページ 54) を参照。

   重要 **指定された銘柄のオイル以外は使用しないでください。他のオイルを使用するとシステムを損傷する可能性があります。**
6. タンクにキャップを取り付ける。
7. エンジンを始動し、全部の油圧装置を操作して内部にオイルを行き渡らせる。
8. また、オイル漏れがないか点検して、エンジンを停止する。
9. 油量を点検し、足りなければディップスティックのFULLマークまで補給する。

   注 タンクに入れすぎないように注意してください。

油圧フィルタの交換

整備間隔: 1000運転時間ごと—**推奨オイルをご使用の場合**には、油圧オイルフィルタを交換してください。

800運転時間ごと—**推奨されていない油圧オイルを使用している場合や代替品のオイルを使用したことがある場合**には、油圧オイルフィルタを交換してください。

トロの純正交換フィルタをお使いください後部用カッティングユニット用は P/N 94-2621、前部用チャージ用は P/N 75-1310 です。

重要 **純正品以外のフィルタを使用すると関連機器の保証が適用されなくなる場合があります。**

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. フィルタ容器の周辺をウェスできれいにぬぐう。
3. フィルタ図 81と図 82の取り付け部周辺をきれいにふき、下に廃油受けを用意し、フィルタを外す。
4. 新しいフィルタのガスケットに薄くオイルを塗布し中にオイルを入れる。

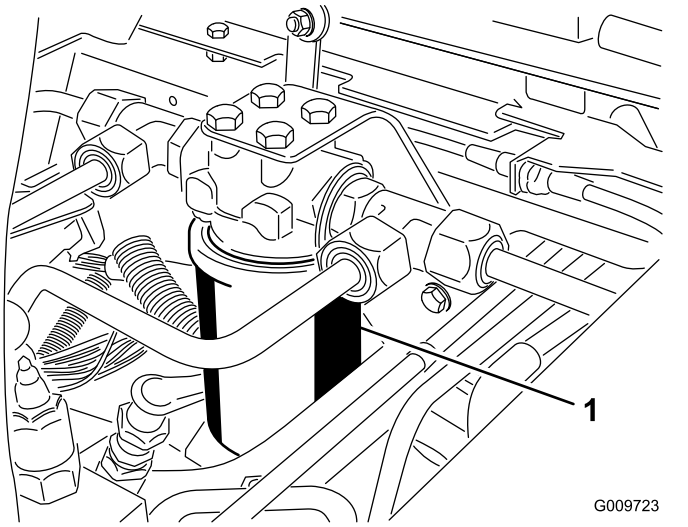


図 81

1. 油圧フィルタ

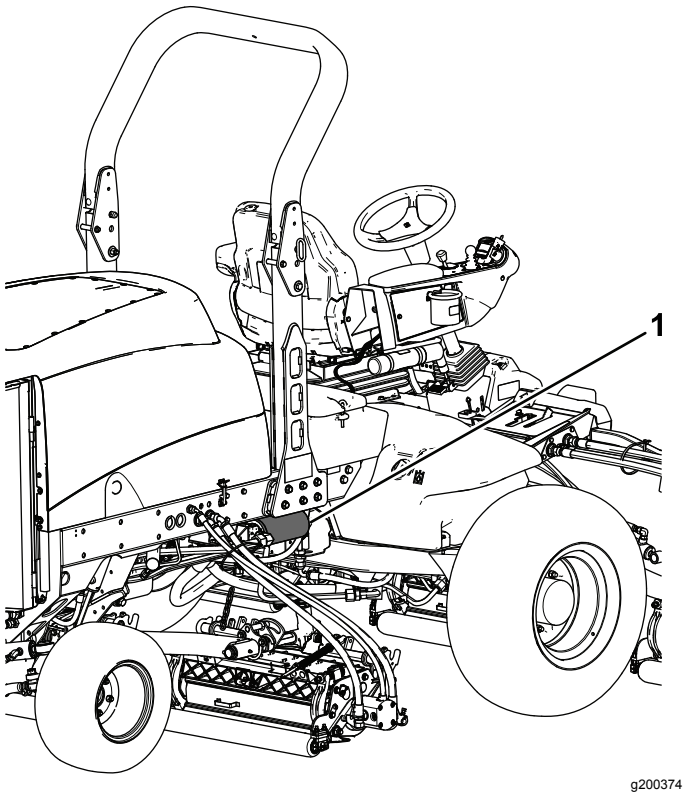


図 82

1. 油圧フィルタ

5. 取り付け部が汚れていないのを確認する。
6. ガスケットがフィルタヘッドに当たるまで手で回して取り付け、そこから更に½回転増し締めする。
7. エンジンを始動して 2 分間運転し、システム内のエアをパージする。
8. エンジンを停止させ、オイル漏れがないか点検する。

カッティングユニットの保守

刈り込みブレードについての安全事項

- 磨耗したり破損したりしたリール刃や下刃は使用中に割れて破片が飛び出す場合があり、これが起こるとオペレータや周囲の人間に多大の危険を及ぼし、最悪の場合には死亡事故となる。
- カッティングユニットが過度の磨耗や破損していないか定期的に点検してください。
- カッティングユニットを点検する時には安全に十分注意してください。刃をウェスでくるむか、安全手袋をはめ、十分に注意して取り扱ってください。リールと下刃は研磨または交換のみ行い、たたいて修復したり溶接したりしないでください。
- 複数のカッティングユニットを持つ機械では、1つのリールを回転させると他のカッティングユニットのリールも回転する場合がありますから注意してください。

カッティングユニットのバックラップ

⚠ 警告

バックラップ中にリールに触れると大けがをする。

- **リールその他の可動部に手指、足、衣類等を近づけないよう注意すること。**
- **エンジンが動いている間は、止まったリールを絶対に手や足で回そうとしないこと。**

注 バックラップの時は、前ユニット、後ユニットがそれぞれ共に回転します。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、PTOスイッチを OFFにする。
2. ラッチを外してフードを開ける。
3. 各カッティングユニットのリールと下刃をバックラップ用に設定するカッティングユニットの*オペレーターズマニュアル*を参照。
4. バックラップレバーで、前のカッティングユニット又は後ろのカッティングユニット、あるいは両方を選択する図 83。
5. エンジンを始動し、アイドル回転にセットする。

⚠ 危険

バックラップ中にエンジン速度を変えるとリールが停止することがある。

- **バックラップ中は絶対にエンジン速度を変えないこと。**
- **バックラップは、必ずエンジンをアイドリング速度にして行う。**

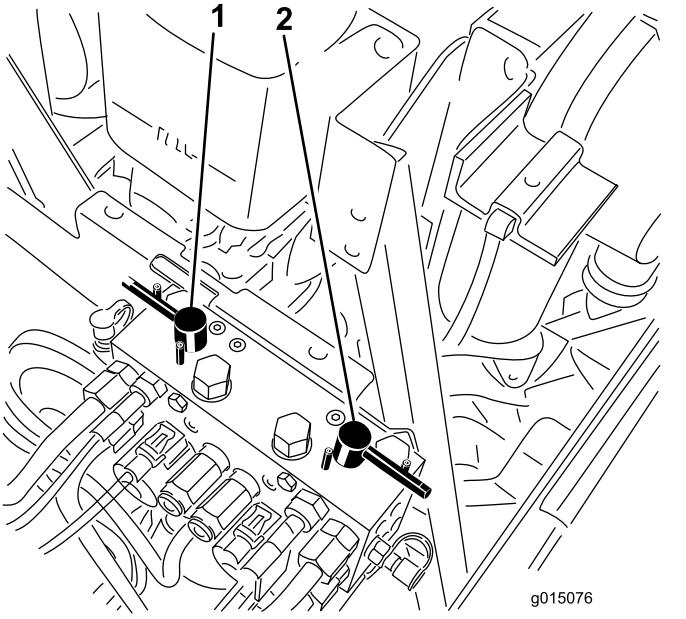
⚠ 危険

回転中のカッティングユニットに触れると非常に危険である。

カッティングユニットから十分離れてから次の手順に進むこと。

6. 刈り込み速度リミッタを「刈り込み」位置にセットし、PTO スイッチを ON にする。
7. 上昇スイッチを押すと、バックラップが開始される。
8. 長い柄のブラシを使ってラッピングコンパウンドを塗布しながらラッピングを続ける。

   注 短い柄のブラシは使用しないこと。



g015076

図 83

1. 前側バックラップレバー　　2. 後側バックラップレバー

9. リールの回転が止まってしまったり、回転が一定しない場合には、スロットル速度を少し上げて安定させる。
10. バックラップ中にカッティングユニットに調整を行う場合には、まず昇降スイッチの後部を押してリールの回転を止め、PTOスイッチをOFF位置にセットし、エンジンを停止させてから調整作業に取り掛かる。調整が終ったら5-9を行う。

11. バックラップするユニット全部に上記手順を行う。
12. 終了したら、バックラップレバーを刈り込み位置に戻し、フードを下ろし、カッティングユニットについているラッピングコンパウンドをていねいに洗い落とす。必要に応じてリールとベッドナイフの刃合わせを行う。リール回転速度コントロールを、希望の速度位置にセットする。

重要 **バックラップスイッチを OFF 位置に戻さないと、カッティングユニットの上昇などの操作をすることができません。**

注 さらに詳しい説明が、Toro *リール/ロータリーモアのための研磨マニュアルForm No. 80-300 SL*に掲載されています。

注 バックラップが終わったら、ベッドナイフの前端に軽くヤスリ掛けを行うとさらに切れ味が向上します。これによりベッドナイフ前端に形成されたバリが除去されます。

洗浄

機体の洗浄

必要に応じて水または水と刺激の少ない洗剤で車体を洗浄する。柔らかい布などを使っても構いません。

重要 **塩分を含んだ水や処理水は機体の洗浄に使用しないでください。**

重要 **圧力洗浄機で機体を洗浄しないでください。高圧の水で洗浄すると電気系統の損傷、重要なデカルのはがれ、グリス部への水の浸入などを起こす恐れがあります。コントロールパネル、エンジン、バッテリーの周囲に大量の水を掛けないでください。**

重要 **洗浄はエンジンを止めて行ってください。エンジンを掛けたままで洗浄を行うとエンジン内部に損傷を起こす恐れがあります。**

保管

格納保管時の安全確保

- エンジンを停止させ、キー付きの機種ではキーを抜き取り、各部の動作が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行う。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管格納しないでください。

トラクションユニットの整備

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. トラクションユニット、カッティングユニット、エンジンをていねいに洗浄する。
3. タイヤ空気圧を点検する タイヤ空気圧を点検する (ページ 46)を参照。
4. ボルトナット類にゆるみながいか点検し、必要な締め付けを行う。
5. グリス注入部やピボット部全部をグリスアップする。余分のグリスやオイルはふき取る。
6. 塗装のはがれている部分に軽く磨きをかけ、タッチアップする。金属部の変形を修理する。
7. バッテリーとケーブルの整備を行う 電気系統に関する安全確保 (ページ 44)を参照。
   A. バッテリー端子からケーブルを外す。
   B. バッテリー本体、端子、ケーブル端部を重曹水とブラシで洗浄する。
   C. 腐食防止のために両方の端子部にワセリンGrafo 112X: P/N 505-47を薄く塗る。
   D. 電極板の劣化を防止するため、60日ごとに24時間かけてゆっくりと充電する。

エンジンの整備

1. エンジンオイルを抜き取り、ドレンプラグをはめる。
2. オイルフィルタを外して捨てる。新しいオイルフィルタを取り付ける。
3. エンジンに推奨モーターオイルを入れる。
4. エンジンを始動し約 2 分間回転させる。
5. エンジンを止め、キーを抜き取る。
6. 新しいきれいな燃料を使って燃料タンクを洗浄する。
7. 燃料関係のフィッティングを確実に締め付ける。
8. エアクリーナをきれいに清掃する。
9. エアクリーナの吸気口とエンジンの排気口を防水テープでふさぐ。
10. 冷却水エチレングリコール不凍液と水との 50/50 混合液の量を点検し、凍結を考慮して必要に応じて補給する。

メモ

メモ

メモ

EEA/UK におけるプライバシーに関するお知らせ

Toro によるお客様の個人情報の利用について

The Toro Company (“Toro”) は、お客様のプライバシーを尊重します。弊社の製品をお買い上げ頂いた際、弊社ではお客様に関する情報を、お客様から直接、あるいは弊社の支社や代理店を通じて入手いたします。入手した情報は、お客様との契約を履行するために使用されます。具体的には、お客様のための製品保証登録、保証請求の処理、万一製品をリコールする場合のご連絡、さらには弊社の事業を進めるため、たとえばお客様満足度を調査したり、製品の改良、またお客様にとって役に立ちそうな製品のご紹介などに使用します。また、トロが上記の業務を遂行するために必要となる活動のために、弊社の子会社、提携会社、代理店などのビジネスパートナーに情報を開示する場合があります。また、法律に基づく要請があった場合や、事業の売却、買収、合併などが発生した場合にはお客様の情報を開示する場合があります。ただし、マーケティングのためにお客様の個人情報を他社に売ることは絶対にいたしません。

個人情報の保存

Toro では、上記の目的にとって必要な期間にわたり関連法律に従ってお客様の個人情報を保持いたします。具体的な保持期間についての詳細をお知りになりたい方は以下にご連絡くださいlegal@toro.com。

セキュリティーについての Toro のお約束

あなたの個人情報についての情報処理作業は、米国またはあなたが居住される国のデータ保護関連規制よりも規制がゆるやかな第三国で行われる場合があります。あなたが居住する国の外にあなたの個人情報を移動させる場合、弊社は法に則った手続きでそれを行い、あんたに関わる個人情報が適切に保護され、また適切に取り扱われるように細心の注意を払います。

アクセスと訂正

お客様には、ご自身の個人情報を閲覧・訂正する権利があり、また、ご自身に関するデータの処理に対して異議申し立てないしは禁止を申し立てる権利があります。このような権利行使をなさりたい場合には legal@toro.com にメールでご連絡ください。弊社によるあなたの個人情報の取り扱い方法に関して懸念をお持ちの場合は、ご自身で直接弊社にお尋ねくださるようにお願いいたします。なお、ヨーロッパにお住まいの皆様は、Data Protection Authority に対して異議申し立てを行うことができます。

カリフォルニア州第65号決議による警告

この警告は何?

以下のような警告ラベルが張られた製品を見かけることがあるでしょう

WARNING: Cancer and Reproductive Harm—www.p65Warnings.ca.gov.

Prop 65 って何?

Prop 65 は、カリフォルニア州で操業している企業、製品を販売している企業、カリフォルニア州で販売または同州に持ち込まれる可能性のある製品のメーカーを対象とした法律です。この法律では、ガン、先天性などの出生時異常の原因となることが知られている化学物質の一覧をカリフォルニア州知事が作成維持しこれを公表しなければならないと定められています。危険物リストは、日常の生活の中で使用するものから発見された数百種類の化学物質を網羅しており、毎年改訂されます。Prop 65 の目的は、こうした物質に触れる可能性があることを市民にきちんと知らせることです。

Prop 65 は、こうした物質を含む製品の販売を禁じているのではなく、そうした製品、製品の包装、製品に付属する文書などに警告を明記することを求めています。また、こうした警告があるからといって、その製品が何等かの安全基準に違反しているということではありません。実際、カリフォルニア州政府は、Prop 65 警告はその製品が安全か安全でないかを示すものではないと説明しています。こうした物質の多くは、様々な生活用品に何年も前から使用されてきておりますが、それらの物質が今までに何らかの健康問題を起こしたという記録はありません。さらに詳しい情報はこちらへ https://oag.ca.gov/prop65/faqs-view-all.

Prop 65 の警告は、以下のうちのどちらかを意味していますある企業が自社製品への化学物質の使用量について評価したところ、目立った危険は何一つないとされる基準を超えていることがわかった、または (2) 製品に使用している化学物質は法律で規制されているものだったので、特に評価を行うことはせず、法に従って警告文を添付することにした。

この法律は全世界に適用されるのですか

Prop 65 警告はカリフォルニア州でのみ要求される法律です。Prop 65 警告はカリフォルニア州のいたるところで目にすることができます。レストラン、八百屋、ホテル、学校、病院など、そして非常に多くの製品にも、この警告が印刷されています。さらには、オンラインやメールオーダーのカタログなどにも掲載されています。

カリフォルニア州の警告と連邦政府の上限との関係は

Prop 65 の内容は連邦政府の規制や国際規制よりも厳しいものが大変多いです。Prop 65 の規制基準値は連邦政府基準に比べてはるかに厳しく、連邦政府基準では表示義務がないが、Prop 65 では表示義務があるものが数多く存在します。たとえば、Prop 65 の基準では、一日当たりの鉛の排出量が 0.5 マイクログラムとなっており、これは連邦政府の基準や国際基準よりもはるかに厳しい数値です。

似たような製品なのに警告が付いていないものがあるのはなぜ

- カリフォルニア州内で販売される場合には Prop 65 ラベルが必要でも、他の場所で販売される場合には不要だからです。
- Prop 65 関連で裁判となった企業が、和解条件として Prop 65 警告の表示に同意したが、そうした問題に巻き込まれていない企業の製品には何も表示されていないといったこともあるでしょう。
- Prop 65 の表示は必ずしも一律に行われているわけではないのです。
- 自社内で検討した結果、Prop 65 基準に抵触しないと判断して、警告の表示を行わないことを選択する企業もあります。警告が書かれていないからと言って、その製品に対象化学物質が含まれていないということは言えません。

なぜ Toro 製品にはこの警告が表示されているのですか

Toro では、十分な情報に基づいてお客様ご自身が判断できるようにすることがベストであるという考えから、できる限り多くの情報をお客様に提供することとしております。リスト記載物質のいくつかが自社製品に該当する場合、Toro では、それらの物質のほとんどの量はごくわずかであって実際の表示義務はないことを認識した上で、排出量などを厳密に評価することなく、警告を表示するという判断をすることがあります。Toro では、自社の製品に含まれる化学物質の量が「重大なリスクはない」レベルであると認識した上で、あえてProp 65 警告の表示を行うという選択をしております。これはまた、もし Toro がこうした警告を表示しなかった場合、カリフォルニア州政府や、Prop 65 の施行推進を目指す民間団体などから訴訟を提起される可能性もあるということも視野に入れての判断です。

Toro 製品保証

2 年間または 1,500 時間限定保証

保証条件および保証製品

Toro 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品「製品」と呼びますの材質上または製造上の欠陥に対して、2 年間または 1,500 運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証はエアレータを除くすべての製品に適用されますエアレータに関する保証については該当製品の保証書をご覧下さい。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「製品」を納入した弊社代理店ディストリビュータ又はディーラー に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

952–888–8801 または 800–952–2740
E-mail: commercial.warranty@toro.com

オーナーの責任

製品のオーナーは、*オペレーターズマニュアル*に記載された整備や調整を実行する責任があります。必要な整備や調整を怠ったことが原因で発生した不具合などの問題点はこの製品保証の対象とはなりません。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません

- Toroの純正交換部品以外の部品や Toro 以外のアクサセリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。
- 推奨される整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 製品を使用したことによって消耗した正常なパーツ通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキパッドおよびライニング、クラッチライニング、ブレード、リール、ローラおよびベアリングシールドタイプ、グリス注入タイプ共、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、ベアリング、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、この他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、チェックバルブが含まれます。
- 以下のような外部要因が原因で発生する不具合天候、格納保管条件、異物、不適切な燃料、冷却液、潤滑剤、添加物、水、薬品などの使用。
- エンジンのための適正な燃料ガソリン、軽油、バイオディーゼルなどを使用しなかったり、品質基準から外れた燃料を使用したために発生した不具合。
- 通常の使用にともなう音、振動、磨耗、損耗および劣化。 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類「部品」は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって交換された部品は製品の当初保証期間中、保証の対象となり、取り外された製品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は再製造部品による修理を行います。

ディープサイクルバッテリーおよびリチウムイオンバッテリーの保証

ディープサイクルバッテリーやリチウムイオンバッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量kWhが決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。注リチウムイオンバッテリーのみ2 年経過後は日割り計算とします。詳細についてはバッテリーのサービスマニュアルを参照のこと。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

排ガス保証についてのご注意

米国においては環境保護局EPAやカリフォルニア州法CARBで定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。製品に同梱またはエンジンメーカーからの書類に同梱されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧下さい。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店ディストリビュータまたはディーラへおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は弊社の正規サービスセンターにご相談ください。